

2019 年度 豊岡市環境報告書

コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲円山川に集まるコウノトリ（2019 年 11 月 撮影）

2021 年2月
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

******* 目 次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について（P1～4）

第2部 「目標とする姿」への取組み状況（P5～36）

第3部 豊岡市の環境の状況（P37～50）

第4部 市の取組み実績（P51～64）

**第5部 前年度環境審議会意見の反映状況(市の取組み)
（P65～70）**

**第6部 2019年度の環境に関する取組みについて
豊岡市環境審議会の意見(今後の取組みに向けて)（P71～76）**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

2016(平成28)年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

第2次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第2次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「よくがんばりました」・「この調子でがんばろう」・「もっとがんばろう」の3段階で評価しました。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念（第2章）

計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

私たちは、次の六つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■目標とする姿（第3章）

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます
- ② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています
- ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

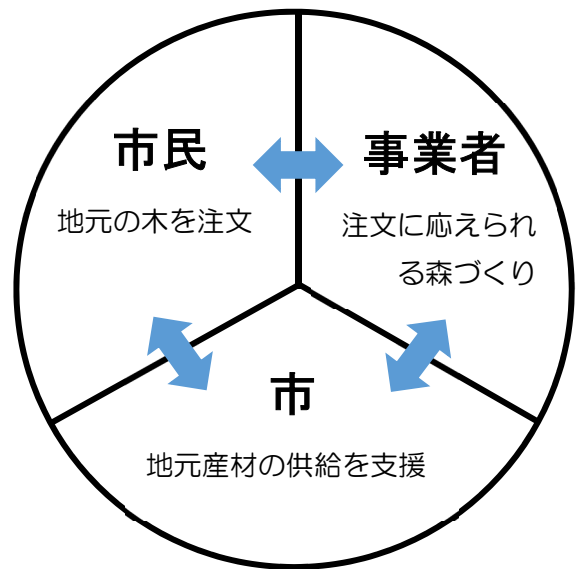
■基本方針（第2章）

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

【注釈】 第2次豊岡市環境基本計画は、2017（平成29）年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、2027年度の豊岡市の姿を想定しています。

取組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組みます。



【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

■取組みの方向（第5章）

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

関連する目標像

（目標像①～⑩）

- 1…①②⑤⑦⑩
- 2…④⑤⑦⑧⑩
- 3…②③④⑤⑦⑩
- 4…①②③⑤⑦⑩
- 5…①②③④⑤⑦⑩
- 6…①⑧⑨
- 7…④⑤⑥
- 8…④⑤⑥⑦
- 9…①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 10…③⑤⑦⑩
- 11…④⑧
- 12…⑧⑨
- 13…②③⑩
- 14…③⑤⑦⑩

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2019 年度を含む「主な指標の変化」(2007 年度～)と 2019 年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

■目標とする姿（第3章）

- | | |
|--|---------|
| ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます | ・・・p.7 |
| ② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています | ・・・p.10 |
| ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています | ・・・p.13 |
| ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます | ・・・p.17 |
| ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています | ・・・p.20 |
| ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています | ・・・p.22 |
| ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています | ・・・p.25 |
| ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています | ・・・p.28 |
| ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています | ・・・p.31 |
| ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています | ・・・p.34 |

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

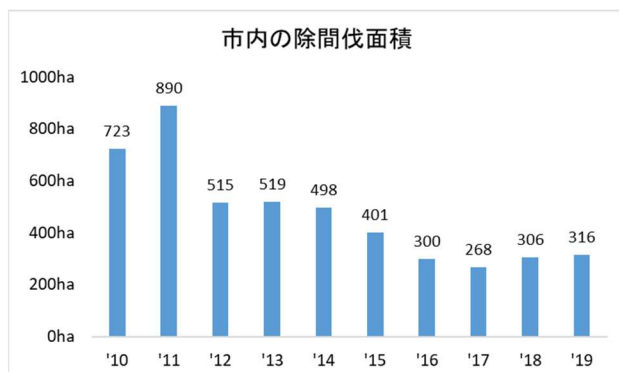
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／ペレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 除間伐と植樹



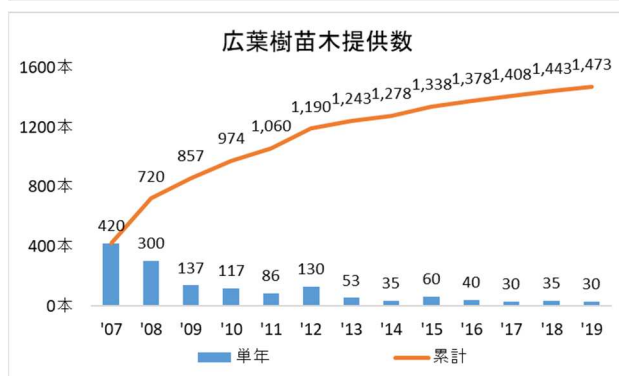
・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。



・市・兵庫みどり公社・民間すべての分収造林を含みます。

【分収造林】

造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林



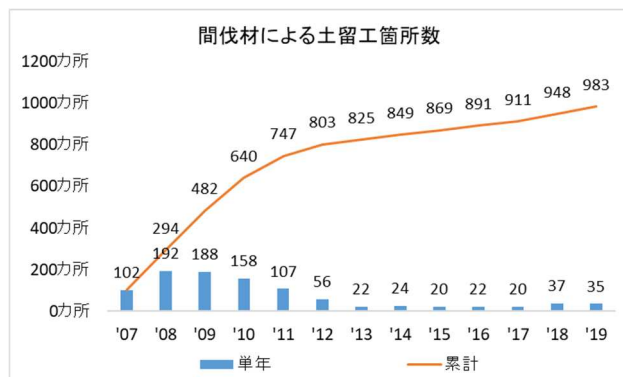
・針広混交林化に向けて、広葉樹の植樹を進めています。落葉等で土壌が肥沃になるとともに、下層植生の成長を促し、土壌浸食等の防災効果が高まることが期待されます。

《所有別森林面積》 (2016 年 3 月 31 日現在)

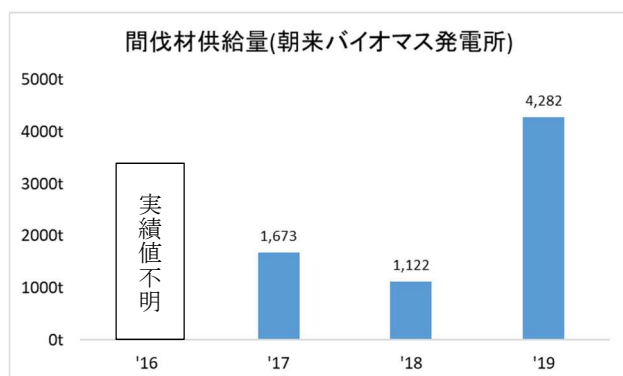
区分	面積	割合
公有林	3,501ha	6.42%
私有林	51,036ha	93.58%
合計	54,537ha	100.00%

資料：兵庫県森林GISシステム

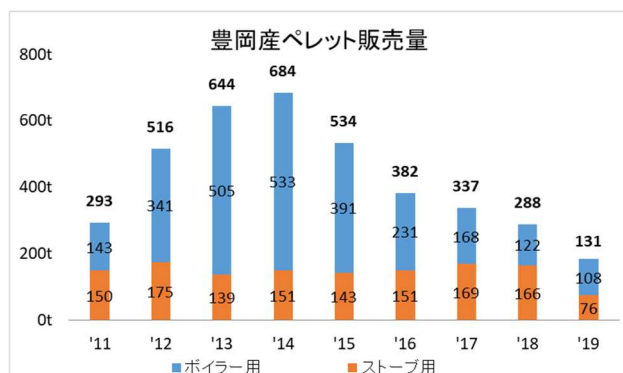
(2) 間伐材の利用



- ・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。

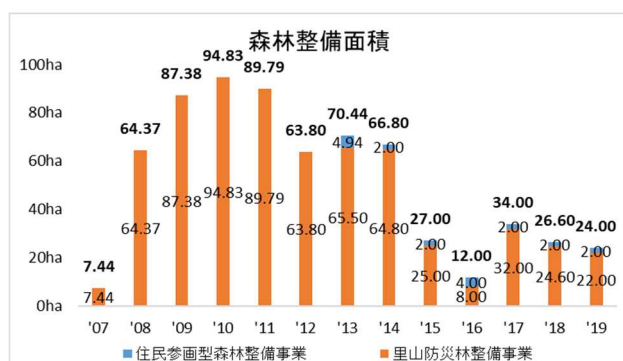


- ・北但東部森林組合から搬出された原木やチップが、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」を通じて、朝来バイオマス発電所(2016年12月運転開始)に供給されています。



- ・2019年8月末を以てペレットの生産を終了し、間伐未利用材利用の主軸が朝来バイオマス発電所への供給に切り替わりました。

(3) 森林の整備



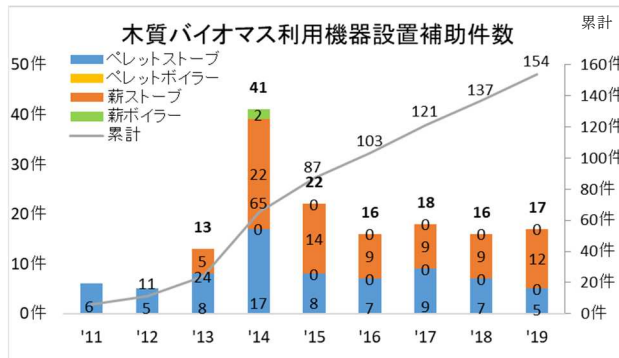
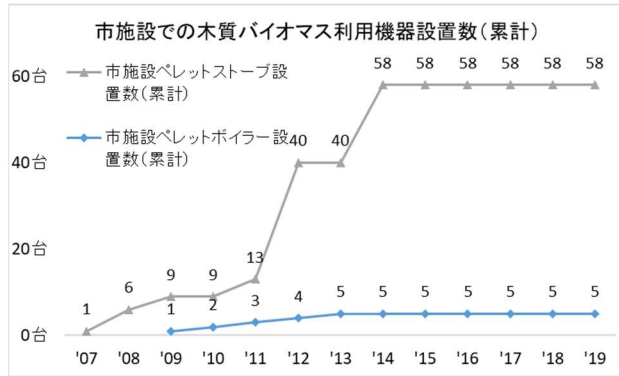
- ・住民参画型森林整備事業は、竹林・枯れ松・危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。

(事業主体：兵庫県、実施主体：区・地域)

- ・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊・崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。

(事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業体)

(4) 木質バイオマス機器の利用



- ・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ・ボイラーの利用促進を進めています。個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助しています。

計画的な森林整備

森林を次代につないでいくためには、木材等の生産機能を活かした「林業経営」だけではなく、災害の防止、雨水のかん養や生物多様性の保全など森林の持つ「多面的な機能」を十分に発揮させることが求められています。

「林業経営」と「多面的機能」の両立を図るために、森林組合等林業事業体が30ha以上のまとまりのある森林を対象に、計画期間5カ年間の「森林経営計画」を作成し、森林の整備を行っています。

市域においては豊岡市が認定した13計画2,000ha(東京ドーム約425個分)が進行中ですが、現状では3団体(北但東部森林組合、株式会社豊岡森林、NextGreen 但馬)という少数の林業事業体のみで間伐などの森林整備に取り組んでいます。



提供：北但東部森林組合

Topics

2 2019 年度評価

評価

- 住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。
- バイオマス発電所への間伐材供給が増加している。

この調子で
がんばろう

目標像②

里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

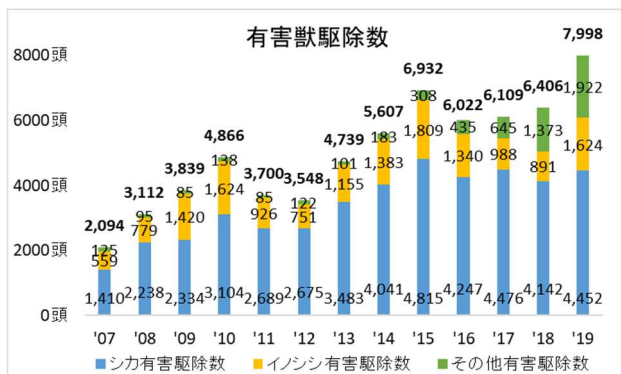
安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

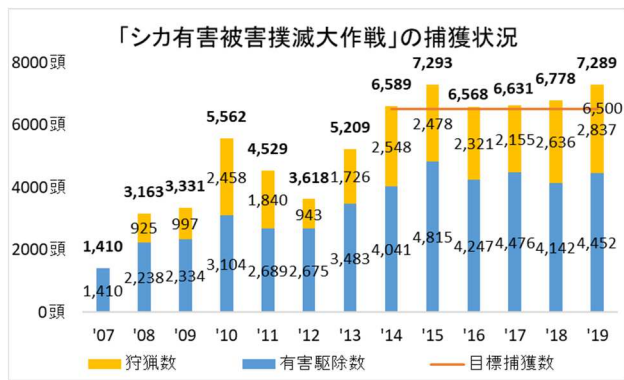
(1) 有害鳥獣対策



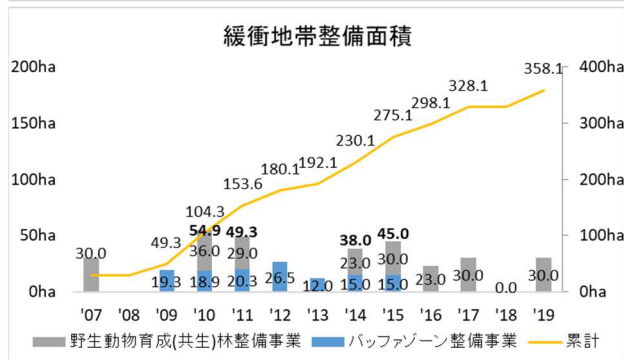
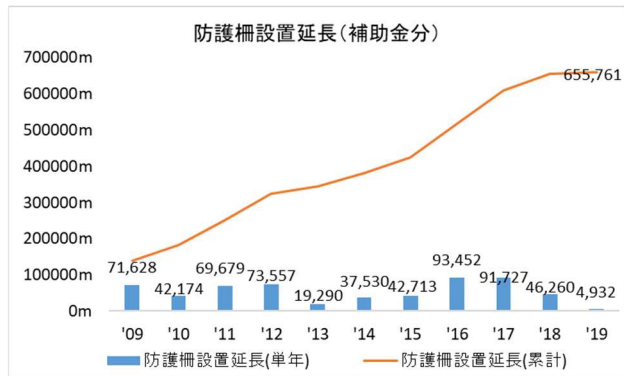
- ・林業被害のほとんどはシカによるものです。
- ・農業被害は、シカやイノシシの他にサルなどの小動物によるものもあります。
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・農家アンケートのため、家庭菜園等の被害は含まれません。



- ・「有害獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウなどが含まれます。



- ・市では、2014 年から年間捕獲数 6,500 頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11 月～3 月)に個人が捕獲した頭数。
- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当者で編成)が、有害獣として捕獲・駆除した頭数。



- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約 20m の見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は 2009～2015 年度まで実施(事業主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する 2 カ年事業で、1 年目に調査、2 年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018 年度は調査だけのため実績がありません。

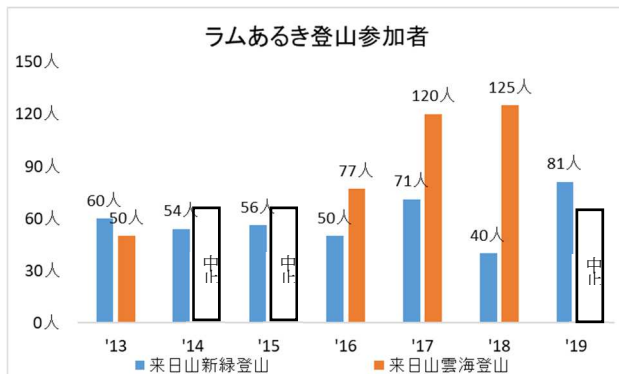
(2) 森林公園の利用



- ・竹野南森林公園では、年 7 回、季節に合わせた体験教室を実施しています。



(3) 森林ツーリズム



- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録され、翌年から来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施しています。
- ・2018年、ラムサール条約湿地が拡張されました。

アップMTBパーク in 神鍋

Topics

2019年6月に神鍋高原にマウンテンバイク（MTB）フィールドが誕生しました。

プロライダーの阿藤寛さんが監修した“関西で唯一”専用リフトが導入された山頂まで上られるフィールドです。短く刈り込んだ芝のコースは走りやすく、必要な道具の貸出もあり、神鍋の夏のアクティビティの一つとして、初心者から経験者まで幅広い利用が期待できます。

人が生きていくための産業がなくなり人間が住まなくなった場所には野生動物が増えていきます。地域に人が住めている状態を作らなければ、自然は守れません。山の近くでいかに人が生活できるかという点と環境保全との両立に期待しています。



提供：アップかななべ

2 2019 年度評価

評価

- ラムあるきが登山イベントとして浸透している。
- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を達成している。
- 有害獣の駆除や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業獣被害額は減少している。

よく
がんばり
ました

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

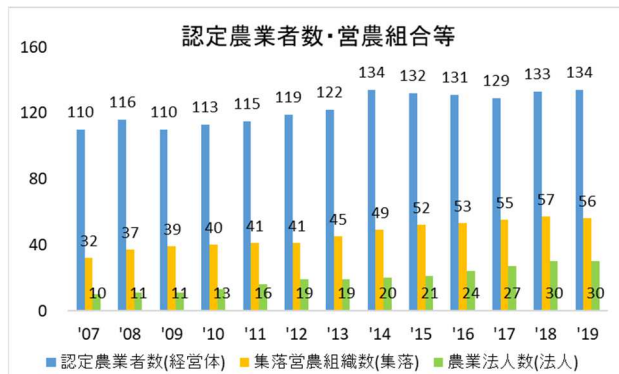
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

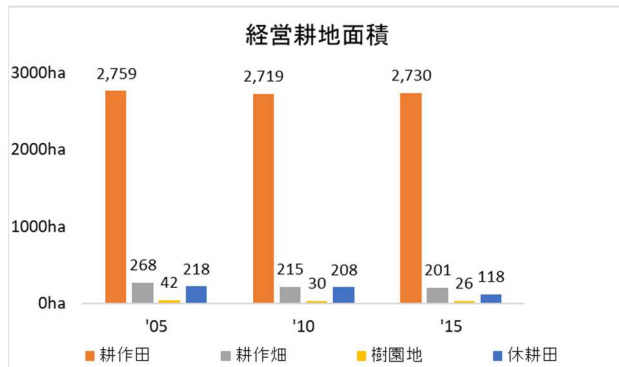
(1) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

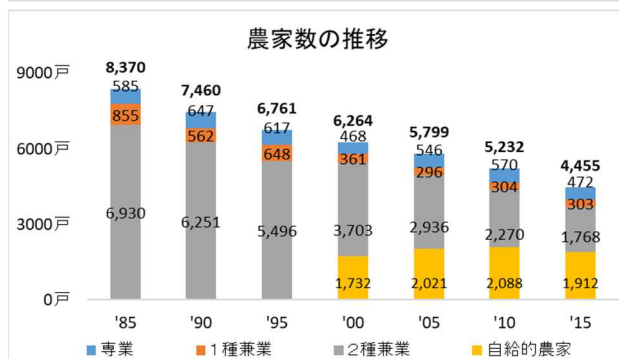
【認定農業者】

農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積



・2000 年以降の専業・兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専兼業別調査が簡素化されました。

【第1種兼業農家】

農業所得を主とする兼業農家

【第2種兼業農家】

農業所得を従とする兼業農家

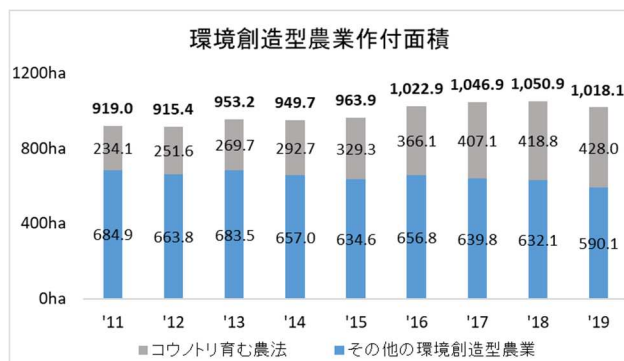
【販売農家】

経営耕地面積が 30a 以上または農産物販売金額が 50 万円以上の農家

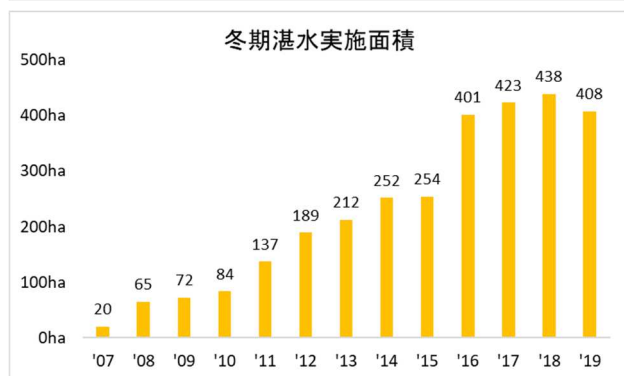
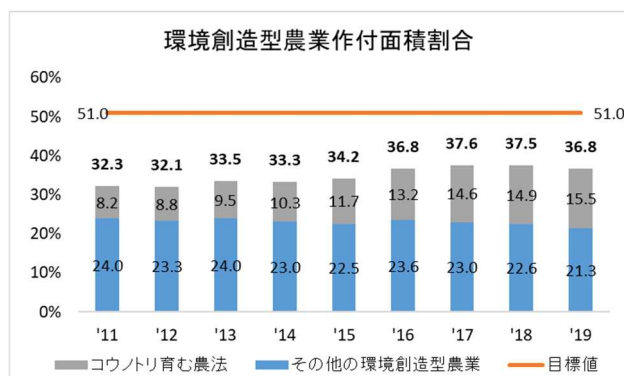
【自給的農家】

経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

(2) 環境にやさしい農業

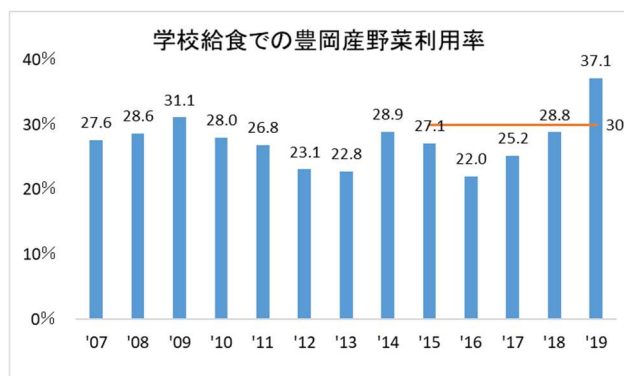


- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方策を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬・化学肥料 50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。

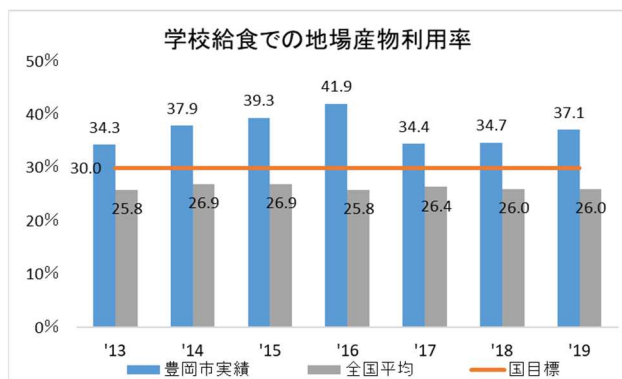


- ・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2～5 cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。
- ・2019年度は降雨及び降雪が少なく取水が困難な状況であったことから、実績値が減少しています。

(3) 学校給食への利用

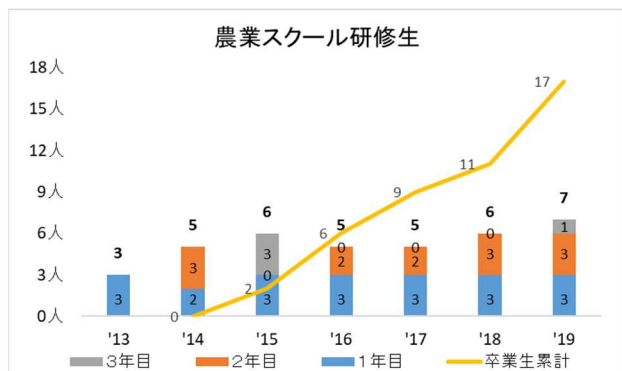


- ・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。
- ・利用率は重量で計算しています。
- ・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取り組みも行われています。
- ・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を利用しています。
- ・2015年度から、30%以上の利用を目標に設定しています。



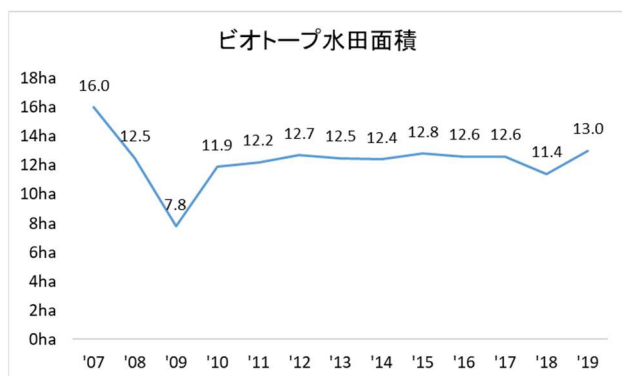
- ・農林水産省の「第3次食育推進基本計画」で学校給食における地場産物を使用する割合30%以上を目標にしています。
- ・地場産物は県内産食材を指します。
- ・利用率は品目数で計算しています。
- ・この調査は、6月・11月のそれぞれ5日間を対象に行われています。

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」として市と管理委託契約を結んでいます。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積は、目標像⑦(p. 26)に掲載しています。

豊岡市では、農業の担い手育成および環境創造型農業の普及を図るため、将来に市内で就農する意欲のある 50 歳以下の方を対象に、「豊岡農業スクール」を開校しています。

認定農業者を研修先（受入農家）とし、1 年間(更新で最長 3 年間)で生産技術や経営能力を身につけます。2013 年 4 月にスタートし、2020 年 3 月末時点で、水稻、野菜、果樹、畜産などの多様な分野にわたる、延べ 17 人の研修生が卒業し、市内で就農しています。

研修では、土壌分析の結果を踏まえた有機物の補充、太陽熱と微生物の発酵熱による雑草や病原菌の駆除など、科学的な方法に基づいた土づくりについて学びます。卒業生(畜産を除く、水稻・畑作・ぶどうの就農者)の約 6 割が、化学肥料と農薬の使用を抑えた生産方法の認定を受け、栽培・出荷に取り組んでいます。

若手農業者による連携の取組みも広がりつつあります。生産技術の確立、収穫量の安定、売り先の確保などの条件が整うことで、人と環境にやさしい環境創造型農業の普及が一層期待されます。



科学的な土壌分析（座学研修）



環境創造型農業に取り組む、卒業生の圃場視察
(実地研修)

2 2019 年度評価

評価

○農業スクール卒業生が豊岡で就農し、多様な農業の担い手が増えつつある。

○ビオトープ水田面積が増加している。

▲環境創造型農業の作付面積割合は減少している。

この調子で
がんばろう

目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

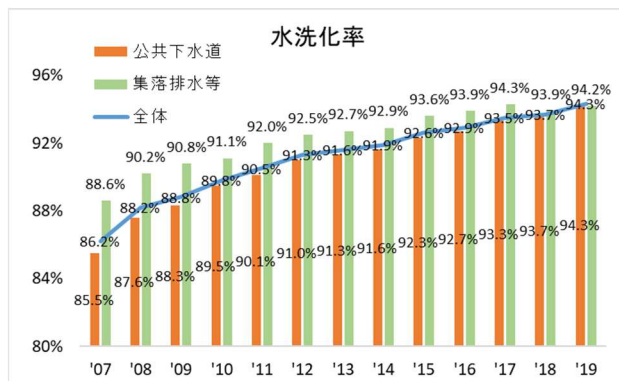
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

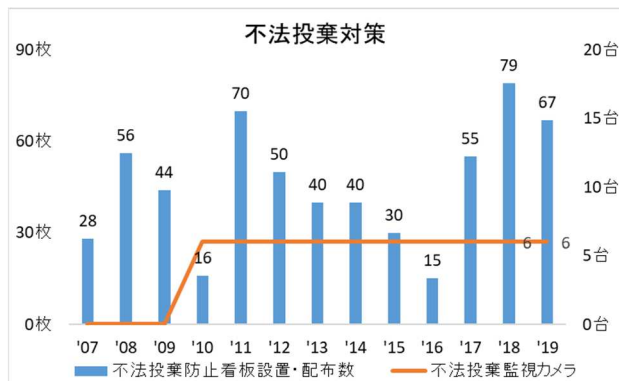
1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 川の水質保全



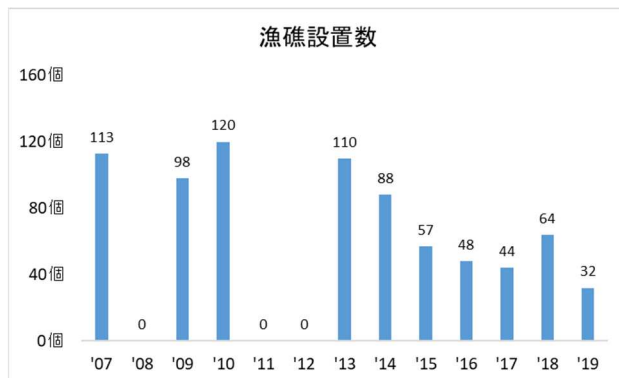
- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標にしています。

(2) 不法投棄対策

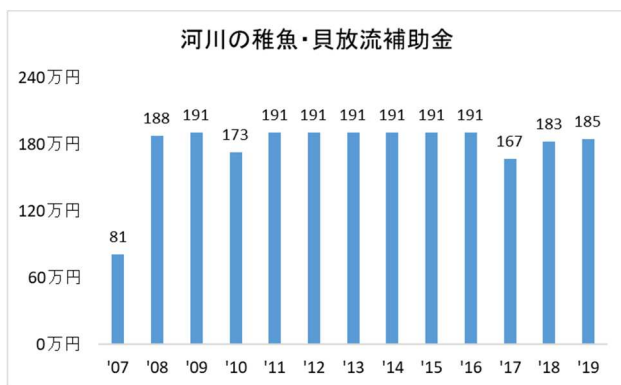


- ・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。
- ・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが捨てられています。

(3) 水産資源保全

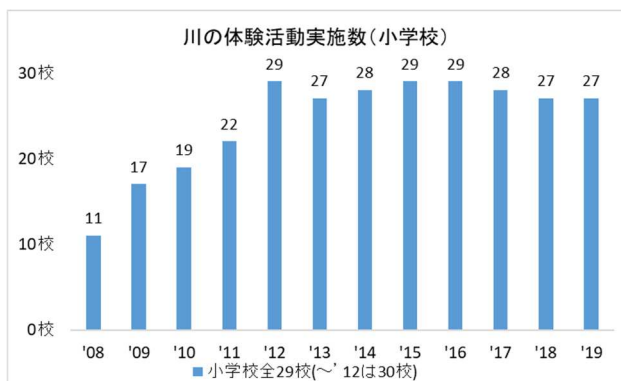


- ・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される、魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。
- ・2019 年度は漁礁設置効果調査の実施や設置する漁礁のサイズが大きくなったことにより設置数が減っています。



- ・豊岡市が、円山川漁業協同組合（アユ、ハマグリ）と竹野川漁業協同組合（アユ、アマゴ）に補助をしています。

（４）子どもたちの体験活動等



- ・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習（小学校3年生対象）」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。
- ・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。

（５）清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が行われています。

<活動事例>

川清掃

清掃場所	活動主体	活動日
円山川河川敷	円山川菜の花の会	4月27日（土）
円山川	円山川城崎ボート協会	3月22日（日）
谷山川下流域	谷山川を育む会・まもり隊	毎月10日

浜清掃

清掃場所	活動主体	活動日/活動頻度
気比の浜・田結の浜	港中学校・港西小学校・港東小学校・港認定こども園	6月29日（土）
竹野海岸	竹野海岸ボランティアクラブ	毎月

上記の他に、但馬漁協津居山支所婦人部による港湾清掃、田結・気比の高年クラブによる浜の草刈りなども行われています。

また、兵庫県建設業協会豊岡支部では、クリーン但馬10万人大作戦で出たごみの回収作業や円山川清掃活動が行われています。

アユ産卵場づくり

円山川水系自然再生推進委員会では、円山川本川をはじめ支流で実施される自然再生事業が河川に与える効果や治水事業の影響を評価するため、アユの産卵場調査等を行っています。

近年、アユの産卵場の確認面積が減少傾向にあることや日最大の遡上数が減少していること等から、地元漁業協同組合や建設業者、環境 NPO、兵庫県立大学大学院等の協力を得て、産官学民共同でアユの産卵場造成実験を行いました。

10月1日、2018年度から取り組みはじめ2年目となりますが、河床をジョレンで耕したり、付近で繁茂するオオカナダモを除去する等、豊かな河川環境の回復を願いながら参加者全員で汗を流しました。



▲造成作業風景

▼アユの卵確認



円山川とボート競技

4月26日、公益社団法人日本ボート協会と豊岡市で「連携・協力に関する協定書」「公認パートナー契約」が調印されました。連携協力事項には、ボート競技の普及・振興や東京オリンピック・パラリンピック等に関する強化合宿・事前合宿等の受入れが定められています。

円山川は高低差が少なく流れが穏やかなためボート競技に適しており、「円山川城崎漕艇場」では、日本代表チームが3年連続で強化合宿、ドイツとスイスのボート代表チームも事前合宿を予定しています。

円山川城崎ボート協会では、ボート教室等の実施や河川環境の保全の他、城崎中学校ボート部の活躍などさまざまな情報発信も熱心に行っています。漕艇競技「城崎レガッタ」は、職場の仲間や友達同士でチームを組んだ初心者から経験者まで幅広い参加者で、毎年盛り上がっています。



▲城崎レガッタ 競技の様子

新城崎大橋が完成すれば、2000mのコースがとれるようになり、国際大会の開催も可能です。今後のますますの盛り上がりが期待されます。

2 2019 年度評価

評価

○川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。

▲大雨の後、河川敷の草や刈り草などが海に流れている。

▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。

もっと
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

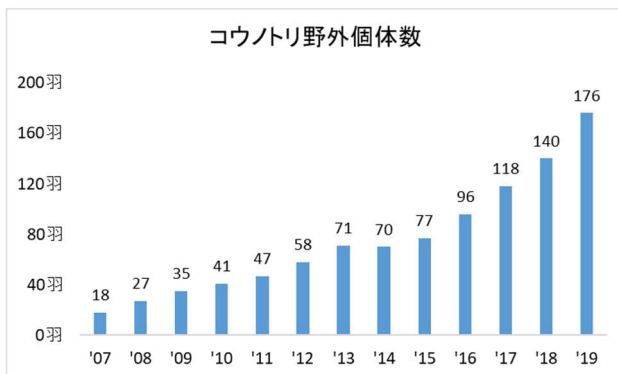
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

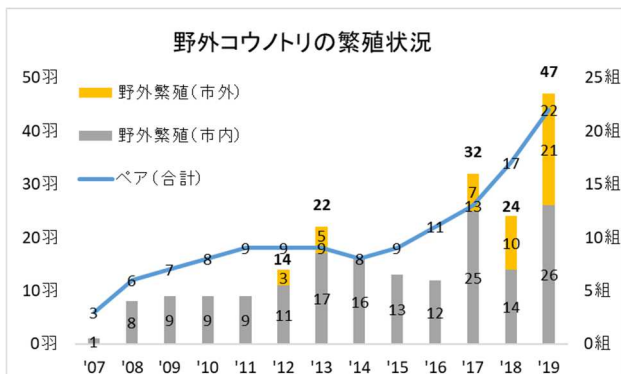
1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 野外のコウノトリの状況



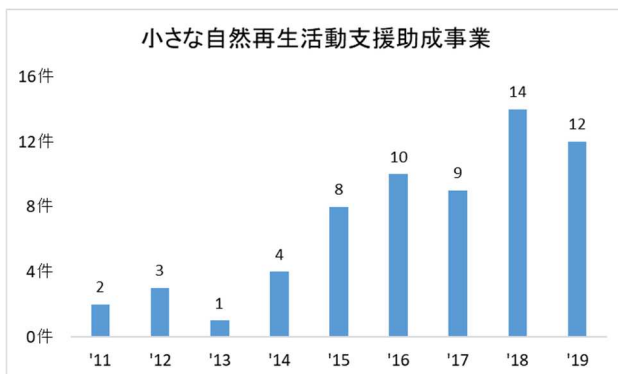
・2005 年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。

・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017 年度には、47 都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。



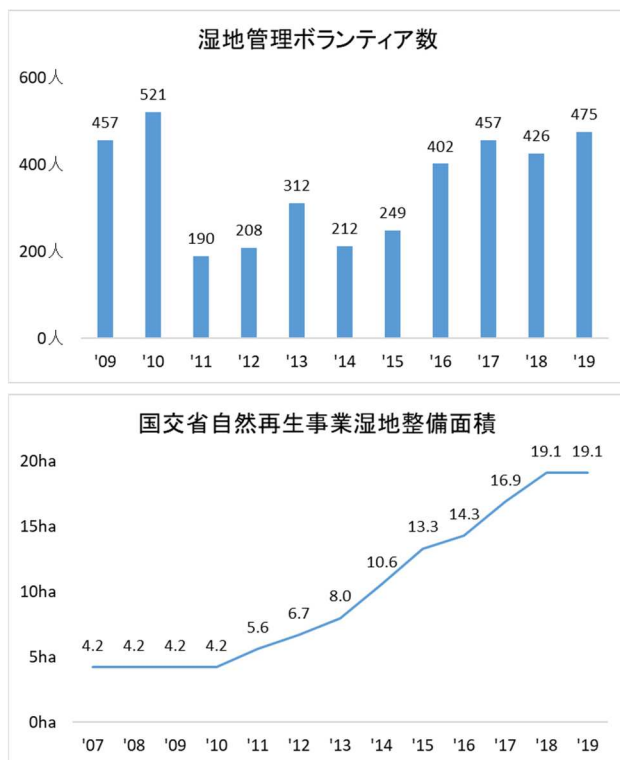
・2019 年度の野外繁殖地(市外)は、養父市、福井県坂井市、京都府京丹後市、鳥取県鳥取市、島根県雲南市、徳島県鳴門市です。

(2) コウノトリが生息できる環境の整備



・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来雑草の除去など)」を支援しています。

・2019 年度から、補助上限額が 10 万円から 5 万円に変更になりました。



・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、保全・管理作業を進めています。

・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。

みどり豊かなふるさと大賞受賞

Topics

内町環境保全組合(奈佐地区)が、みどり豊かなふるさと大賞「知事賞」を受賞しました。

内町区では、農地・水・環境保全活動をきっかけに営農組合を設立し、農地と農村環境保全活動を両輪で行っています。

水路の泥上げや水路の目地修理、獣害柵補修などの活動から、ホタルを見る会の開催やワークショップ方式の意見交換会など活力ある地域づくりがされており、令和元年度優良事例地区として紹介されました。

話し合い結果の実現に向け、営農組合の法人化や農地中間管理事業の活用、基盤整備採択への取組み等を実行している点が高く評価されています。



▲(左)ホタルを見る会、(右)ワークショップ

(提供：内町環境保全組合)

2 2019 年度評価

評価

○野外で暮らすコウノトリの個体数が増加している。

○円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。

▲外来種駆除が進んでいない。

この調子で
がんばろう

目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【主な取組みの方向】

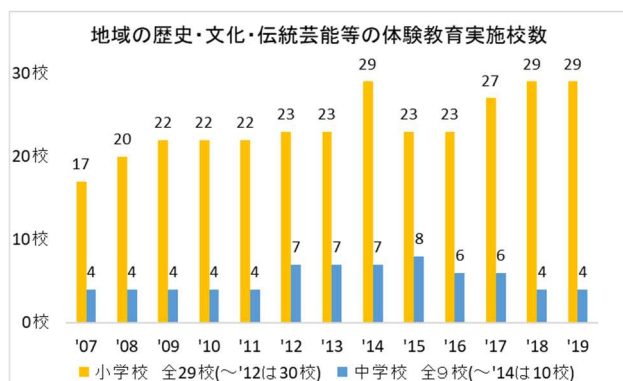
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

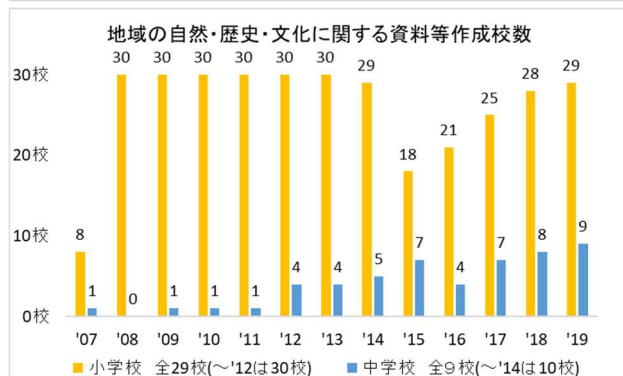
地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」に体験教育に取り組んでいます。



・2019 年 4 月 26 日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2 月 20 日～4 月 25 日まで休館)。

※トピックス(p. 24) 参照

歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、市内外で講演会や体験講座を実施しています。

イベント件数(市内)	参加人数
14 件	322 人

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止したイベントがあります。

(2) 豊岡市の無形民俗文化財

第 3 部「豊岡市の環境の状況」(p. 50～53) 参照

(3) 地域コミュニティ

2017 年度から、地区公民館が全てコミュニティセンターに変わりました。それに伴い、旧地区公民館区域を単位とした新しい地域コミュニティが、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行います。地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。

<地域コミュニティの行事事例>

各地域コミュニティでは、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

出典：2019 年度地域コミュニティ組織活動事例集

【第 10 回港かるた大会／コミュニティみなと未来】

2 月 2 日、コミュニティセンターの大会議室で、第 10 回港かるた大会を開催しました。

「港かるた」は、事務局が各地区民に呼びかけ、立ち上げた実行委員会によって、2008 年から 2 年間かけ制作しました。かるたを作成することによって、ふるさとの良さを再発見するのが狙いで、取り札の「あ」～「ん」までの掲載内容を決めるため、地域内全 7 行政区より歴史・文化・景勝から産業までを、実行委員会で考え制作に取り掛かりました。

今では、かるた大会を通じてのふるさと教育のほかに、かるたの札に書かれている場所を巡るためのマップ作り、マップを使って実際に巡ることで、地域の宝を再発見する機会にもなっています。

また第 10 回記念大会でもあり、パフォーマンス賞として企業やグループなどの PR をかねて扮装をして出場したチームの中から 4 チームを表彰し、大いに盛り上がりしました。



【愛宕の火祭り／福住ふれあい協議会】



8 月 25 日、愛宕神社のお祭りとして、愛宕火祭り奉賛会の主催で、第 40 回「愛宕火祭り」が開催されました。地域内は勿論のこと、地域外からの来場者も多く、また、近年は外国の方の来場者も増えつつあります。

郷土の祭りとして地域住民に親しまれる中で、小学校高学年の女子児童 4 人が「浦安の舞」を披露したり、中学生男子 12 人が、神社から 280 段の石段を下り、お祭りに使う火を持ち帰る「火の奉仕者」としての役目を担ったりして、子どもたちが地域行事へ参加するという意識を醸成する機会にもなっています。

コミュニティは、お祭りの会場設営や進行、また、お祭りを支える方々の食事や飲み物の準備、ポスター掲示の広報活動等、間接的に支援することで地域の伝統行事を守っています。

【Project-Legacy／高橋振興対策協議会】

「高橋ふるさと探訪ガイドブック」が発行出来ました。地域住民自らの力によって、高橋ふるさと探訪で見つけた、(高橋地区内の) 各行政区の宝や風習・文化財などのいわれも含め、カタチにあるものにしよう。と、プロジェクトチームを立ち上げ、作成にあたりました。

作成には、各地区から編集員を募り、意識や想いのすり合わせから始まり、掲載する内容の水準なども、みんなで話し合い決めていきました。発行部数は、2,000部で各戸への配布の他に、シルク温泉や但熊など商業施設では、100円/部で販売もして頂いてます。

このガイドブック作りがきっかけとなり、1行政区で自主的に名所旧跡といわれ等を掲載した、行政区版ガイドブック作りが始まりました。



※ () は編集者補足説明

市立歴史博物館-但馬国府・国分寺館- リニューアル

Topics

2019年4月25日、市立歴史博物館-但馬国府・国分寺館-がリニューアルオープンしました。

リニューアルを機に、国府・国分寺時代中心の展示から、縄文～昭和時代の展示へと幅を広げ、現在につながる歴史の流れが分かるように再構成しました。

職員が制作した、昔の暮らしぶりなどを描いた絵パネルに合わせて資料を展示し、子どもから大人まで分かりやすく学ぶことができます。企画展示室では毎年3回程度、様々な分野をとりあげた企画展を開催しています。

また、歴史博物館では、勾玉づくりや古代衣装づくりなど、歴史の面白さを気軽に体感できる体験教室も実施しています。



2 2019 年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶ子どもたちが増えている。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

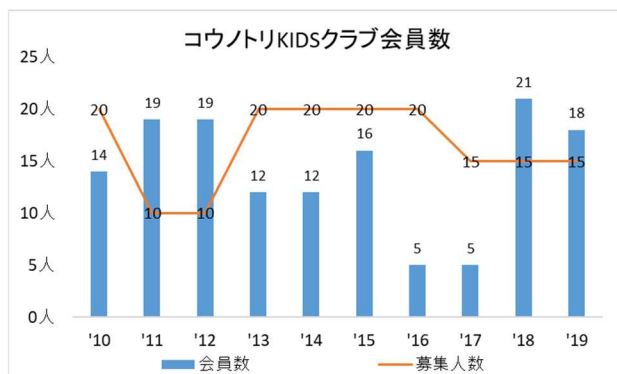
地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

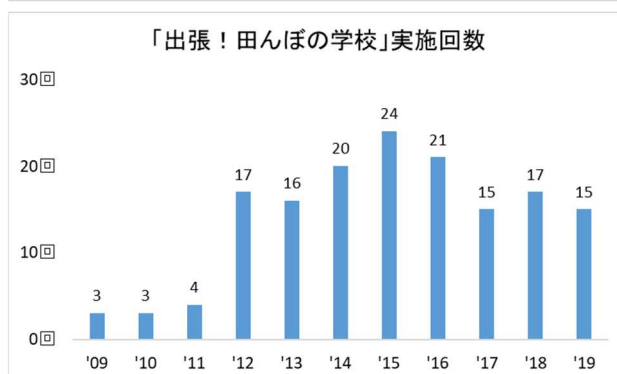
(1) 自然を学ぶ機会



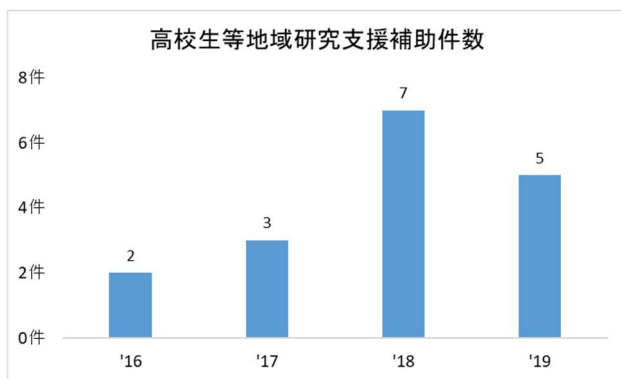
・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。



・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催のクラブ活動です。
・対象：市内小学校4～6年生



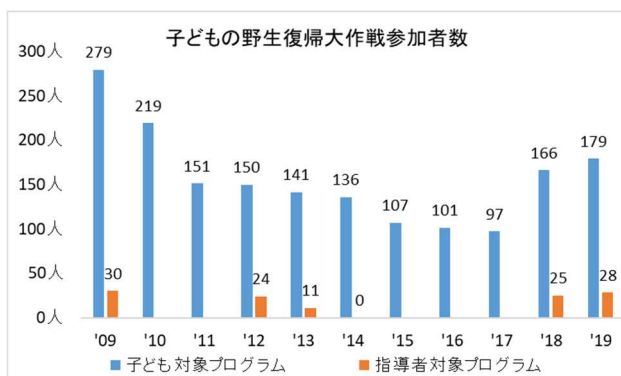
・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。



- ・高等学校・高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。
- ・2019年度から、補助上限額が10万円から5万円に変更になりました。

《2019年度の研究》

申請者	研究タイトル
クラーク記念国際高等学校 豊岡キャンパス	特別活動「豊岡のコウノトリについて学ぼう」
兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ	高校生の湿地などでの環境保全・調査観察活動
兵庫県立出石特別支援学校	高等部コウノトリはばたけ学習
兵庫県立豊岡総合高等学校	コウノトリ共生-人と自然の共生-
兵庫県立出石高等学校	文理探究Ⅰ 自然分野の探求 ～コウノトリとふるさと豊岡の自然環境を学ぶ～



- ・子ども対象プログラムは、2017年度までは「子どもコース」と「家族コース」の合計、2018年度からは「周年型プログラム」と「単発型プログラム」の合計です。
- ・子ども対象プログラムでは、市内各地域での活動を通じて、豊岡の自然を体験します。

(2) 学べる地域環境

市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めています。環境学習フィールドとしても活用しています。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位：a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	港東	5.2	日高	府中	74.9	出石	弘道	0.0
	八条	111.0		港西	0.0		八代	0.0		福住	0.0
	田鶴野	47.7		神美	244.6		日高	40.8		寺坂	10.1
	三江	78.0	城崎	城崎	0.0		静修	0.0		小坂	0.0
	五荘	222.4		竹野	16.8		三方	36.4		小野	74.8
	新田	0.0		中竹野	0.0		清滝	19.1	但東	合橋	233.4
	中筋	17.2		竹野南	0.0					高橋	0.0
	奈佐	48.3								資母	22.1

※合計面積の推移は p. 15 に掲載

NPO 法人但馬自然史研究所の 環境体験活動

Topics

源流から海まで二十数キロほどの流呈しかない二級河川竹野川の流れる竹野町が拠点。いくつかの活動の柱のうち、もっとも力を注いでいるのが環境体験活動。春の磯での海藻観察では宇日の漁師さんから海藻の名前や利用法を学び、クッキングしてその場で味わいました。

夏は自給自足キャンプ。海や川から食料を調達して生き延びるためには自然の知識や暮らしの知恵が必要なことを胃袋から学びます。カヌーやスノーケリングは必要最低限のツールとして教えます。

秋には漂着ゴミを拾いながらジオパークの漁村巡り。古老の洞穴の昔話を聞きながらゴミを拾いました。



▲ごみ拾い（竹野浜）

冬は三原の猟師さんと一緒にシカやイノシシを素材にしてジビエソーセージをつくったり、1人暮らしの老人宅の除雪をしたりするキャンプを行ないました。

自然と人の暮らしのつながりを正確な自然観察とプロをまじえた食育学習を通じて徹底的に現場で子ども達に伝えるのがモットーです。

（文・写真）NPO 法人但馬自然史研究所・本庄四郎さん



▲カヌー教室（宇日海岸）

2 2019 年度評価

評価

- コウノトリ KIDS クラブに募集人数以上の応募がある。
- 人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着しつつある。
- 各地で子どもの自然体験活動が浸透している。

よく
がんばり
ました

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

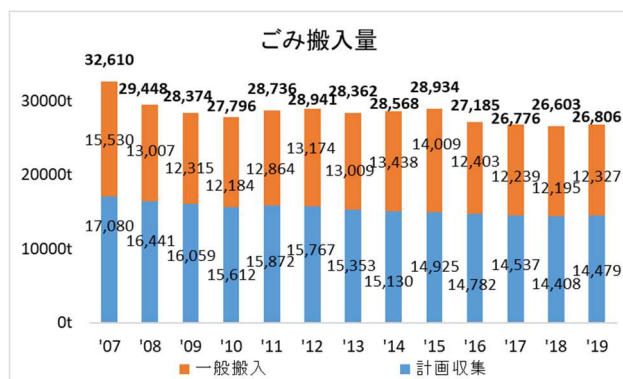
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

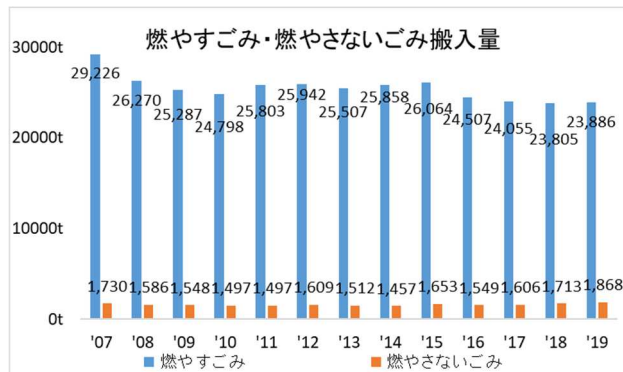
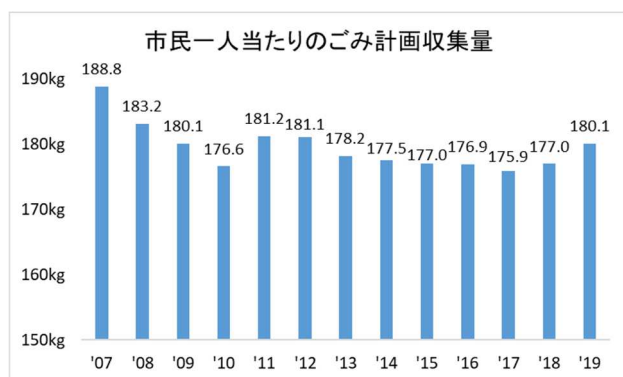
1 主な指標の変化(2007～2019年度)

(1) ごみの量

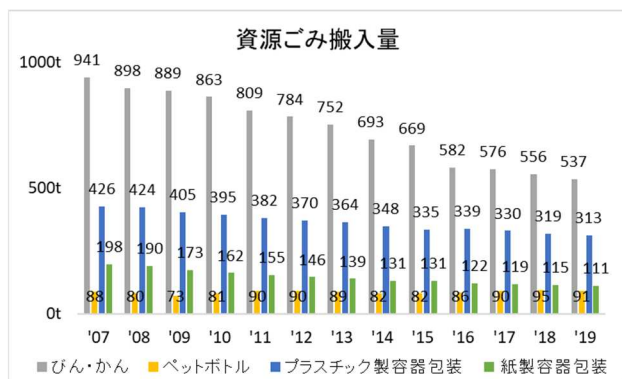


《豊岡市人口(各年度末値)》

年度	人口	世帯
2007	90,443 人	31,808 世帯
2008	89,762 人	31,936 世帯
2009	89,169 人	32,185 世帯
2010	88,407 人	32,313 世帯
2011	87,585 人	32,380 世帯
2012	87,040 人	32,586 世帯
2013	86,173 人	32,651 世帯
2014	85,244 人	32,788 世帯
2015	84,337 人	32,869 世帯
2016	83,544 人	33,043 世帯
2017	82,624 人	33,173 世帯
2018	81,416 人	33,145 世帯
2019	80,416 人	33,274 世帯

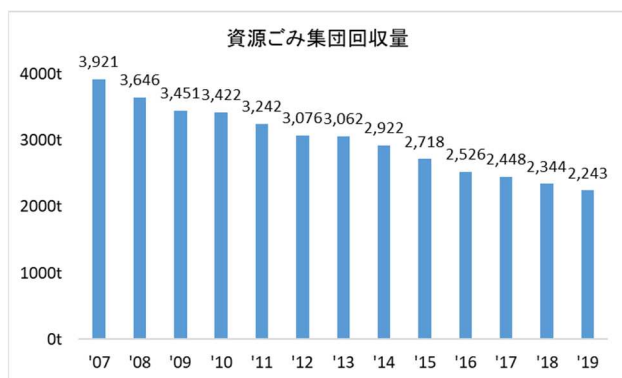


- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・2016 年 4 月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光管・乾電池類・粗大ごみの 4 分類
 - ③1 辺 20cm 以上の缶は燃やさないごみ
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ



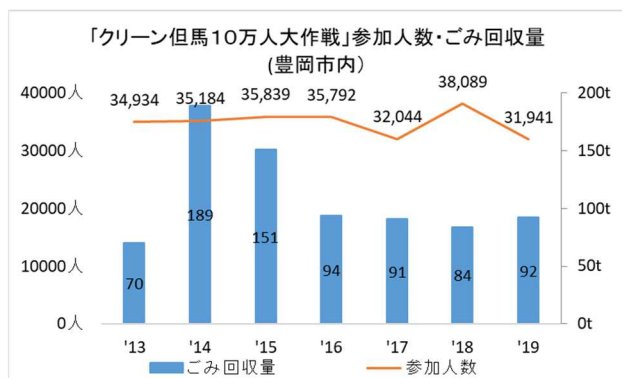
(2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。

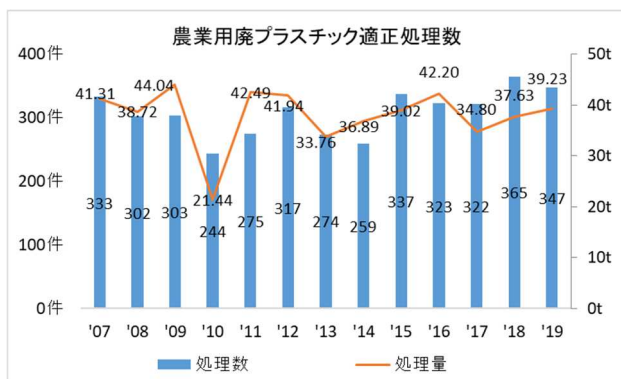


- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、婦人会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬 10 万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。
- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用

市役所の紙リサイクル

Topics

紙はすべて木材(パルプ用材)から作られています。不要になった紙を安易にごみとして焼却することは、貴重な資源を浪費することにつながるため、市役所では、業務上発生した廃棄用紙を分別し、資源として活用しています。

2019年度は、新聞 4,840 kg、段ボール 10,670 kg、コピー用紙・雑誌など 33,120 kgの再資源化を図り、ごみの減量化に寄与するとともに、440,410 円の収益を得ました。

また、通常は焼却処理されることが多い機密文書も、情報漏洩に配慮した集配ルートに乗せることによって再資源化を図り、トイレットペーパーの原料として活かしています。



◀西日本衛材株式会社が、兵庫県内の官公庁や企業から回収した古紙を原料の一部に使用し製造しているトイレットペーパー「兵庫の紙」

本市も 2012 年度から古紙を提供しており、地元貢献として、売上の一部を「コウノトリ基金」に寄付いただいています。

2 2019 年度評価

評価

○市内にいつでも出せる古紙回収ボックスが浸透している。

▲資源ごみ集団回収量が減少している。

▲家庭から排出される一人当たりのごみ量が増加している。

もっと
がんばろう

目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な取組みの方向】

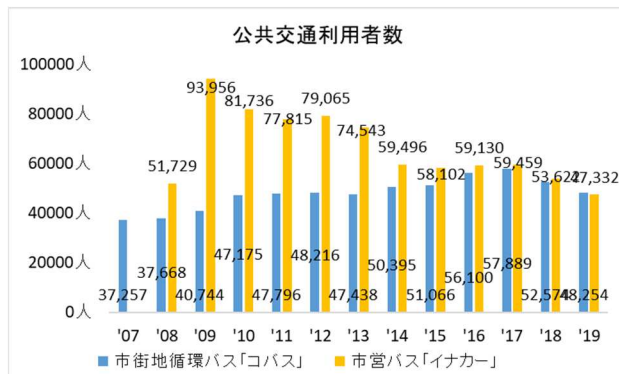
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

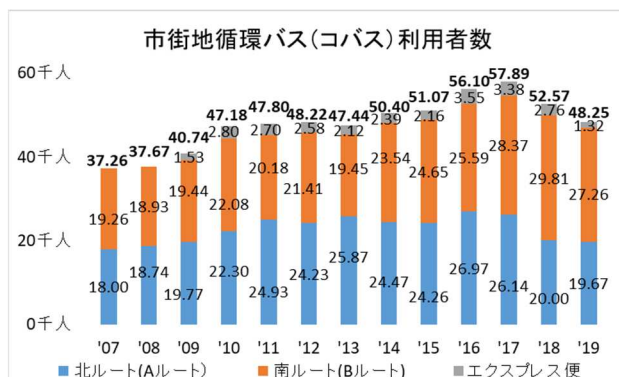
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 公共交通の利用



- ・公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人当たりの二酸化炭素(CO₂)排出量も減らすことができます。

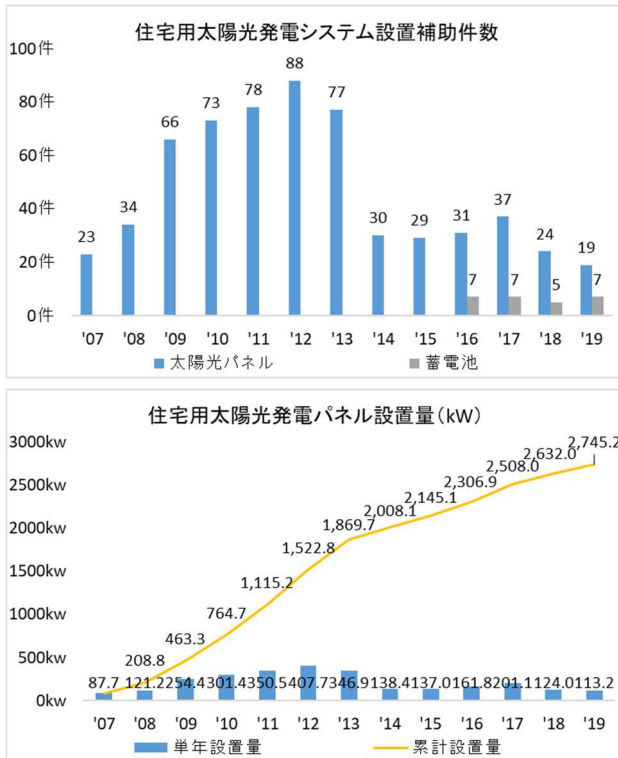


- ・2018 年度、コバスの走行ルートが、A ルート・B ルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ・ルート変更に伴い、5 カ所のバス停を休止し、3 カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。
- ・2019 年度、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、2 月から 3 月にかけてコバス利用者が減りました。

(2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。

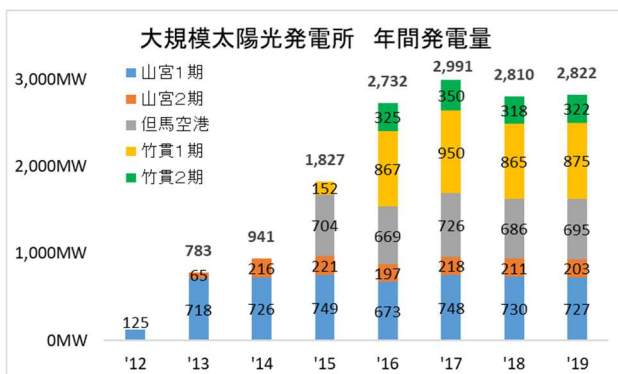
市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



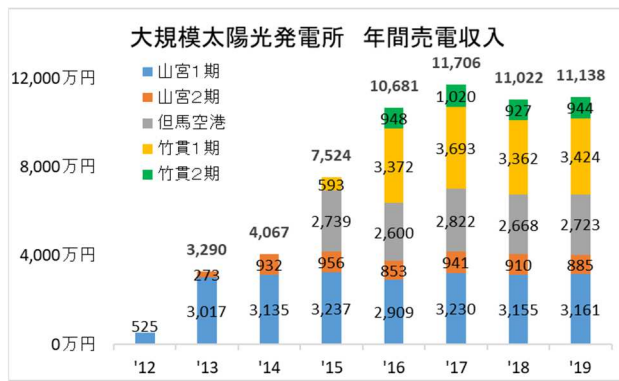
- ・2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。

《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名	稼働開始	最大出力	売電単価(税抜き)
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012年度	681.0kw	40円
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013年度	318.8kw	40円
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013年度	677.6kw	36円
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015年度	823.2kw	36円
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015年度	299.9kw	27円



- ・各大規模発電所は、20年間運営します。



- ・大規模発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持・管理費の他に、住宅用太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。

営農型ソーラーシェアリング

Topics

営農型ソーラーシェアリングは、農地で太陽光発電を行いながらその下で農作物を栽培することで、農業経営の安定化と地球温暖化防止を目的としています。

(株)坪口農事未来研究所（豊岡市三宅）は、2019年7月に営農型ソーラーシェアリングとしてコウノトリ未来発電所1号機を建設し、稼働を開始しました。1号機では上の電気は売電し、下の農地でブルーベリー約150本を市内の福祉作業所と連携して栽培しています。



▲(株)坪口農事未来研究所
(提供：但馬米穀株式会社)



▲福井農園(提供：但馬米穀株式会社)

また、福井農園（豊岡市福田）では、2020年4月の稼働開始に向け、2月に営農型ソーラーシェアリング施設を建設しました。下の農地で稲作をしながら、上の電気は農業施設での自家消費を基本として、余剰電力は五荘地区コミュニティセンターで使用しています。

2019 年度評価

評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- メガソーラーによる発電が順調である。
- ▲コバス利用者が減少している。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境を良くすることで経済が活性化され、
交流も広がっています

【主な取組みの方向】

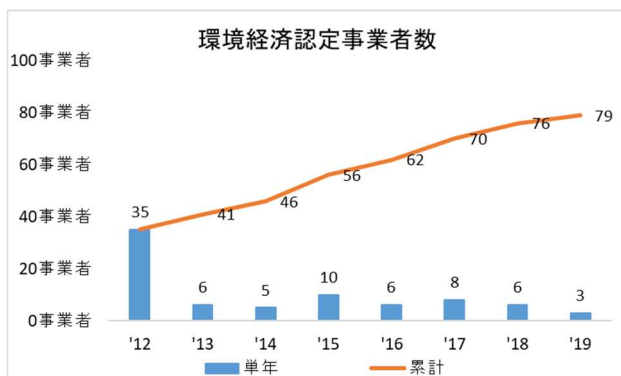
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

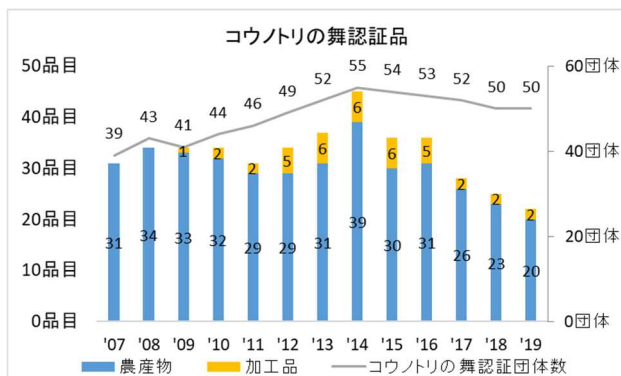
1 主な指標の変化(2007～2019 年度)

(1) 環境経済認定事業



・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。

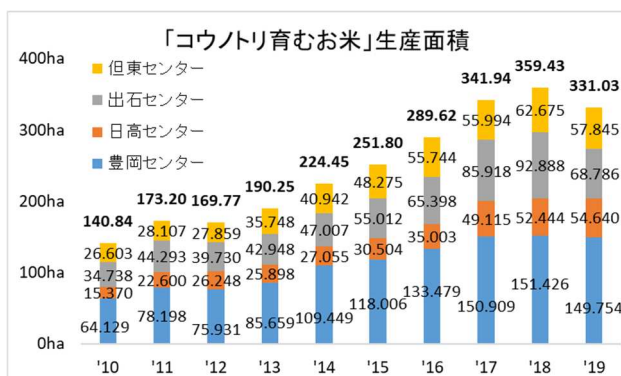
(2) コウノトリの舞



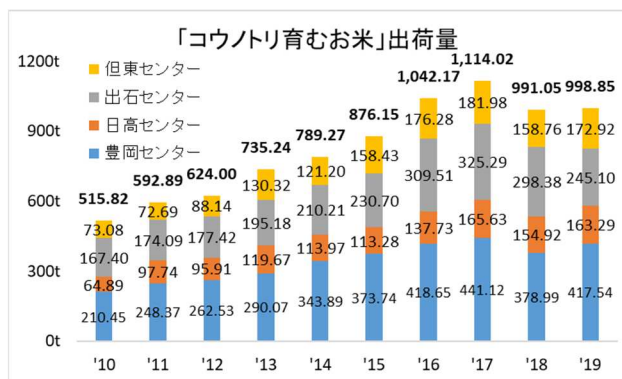
・登録品目

米(うるち、酒、もち)、レタス、コマツナ、ネギ、ハウレンソウ、小麦、ソバ、トマト、バレイショ、シュンギク、キャベツ、黒大豆枝豆、大豆、ショウガ、ブルーベリー、ぶどう、ニンジン、オクラ、タマネギ、トウモロコシ、生姜シロップ、生姜しぼり汁

(3) コウノトリ育むお米



・JA たじま営農生活センターごとのデータです。

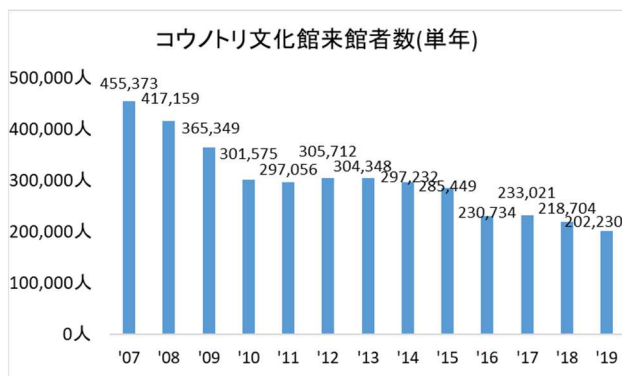


- ・コウノトリ育むお米は海外でも販売されています。

《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域	輸出力
2016	アメリカ、シンガポール	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ、台湾	17.27t

(4) 人・もの・情報の交流



- ・近年、ツアー等の団体客が減少していますが個人旅行客は定着しています。

- ・2006年 100万人達成
- ・2008年 200万人達成
- ・2011年 300万人達成
- ・2014年 400万人達成
- ・2018年 500万人達成

＜市外からのボランティア活動による交流・地域活性＞

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり水路を広げる保全作業や外来種駆除等を行っています。

《市外からのボランティア件数》

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件数	2件	2件	2件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	5件	6件	4件	5件

豊岡型環境創造型農業のシンボル商品「コウノトリ育むお米」の輸出量は年々好調に伸び、2019年度は6つの国・地域(アメリカ、香港、オーストラリア、シンガポール、ドバイ、台湾)へ17.27tを定番商品として輸出しました。

2015年にイタリアで開催された「ミラノ国際博覧会」では、日本館のメインテーマに「コウノトリとの共生農業」が採用され、館内の飲食店7店舗で計24.5tのコウノトリ育むお米が使用されるなど、世界中の人々へアピールしました。

また、同年、豊岡市は有識者と共に海外マーケットリサーチ事業を展開し、同米の輸出先国を絞り込んだ上で、戦略的な輸出システムの構築に乗り出しました。香港の大手量販店で消費者に向け試食販売を実施する他、ニューヨークやロサンゼルス日本食レストランエキスポへ積極的に出展するなど、同米ファンを着実に増やしてきました。

その結果、海外の取扱事業者や消費者からコウノトリ野生復帰の取組みが高く評価され、共感の輪が世界中へ広がっています。



2 2019 年度評価

評価

- コウノトリ育むお米の輸出国、輸出量が増加している。
- 市外からのボランティア活動の受け入れによる交流が継続している。
- ▲コウノトリ文化館の来館者数が減少している。

この調子で
がんばろう

第3部 豊岡市の環境の状況

■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

1 自然

(1) 気象の状況

年 次	気温 (℃)			湿度 (%)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	霧日数 (日) ※	猛暑日 (日)
	平 均	最高極	最低極					
2000 年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
2001 年	14.3	36.8	-6.0	78	2,451	52	83	16
2002 年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
2003 年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
2004 年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
2005 年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
2006 年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
2007 年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
2008 年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
2009 年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
2010 年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
2011 年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
2012 年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
2013 年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
2014 年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
2015 年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11
2016 年	15.4	38.2	-6.9	81	2,073	20	64	10
2017 年	14.4	37.9	-3.8	80	2,525	80	81	15
2018 年	15.5	39.1	-2.1	81	2,259	11	62	31
2019 年	15.7	37.9	-4.2	80	1,608	19	64	21

※「霧日数」は、2007 年 9 月以前(目視)と 2007 年 10 月以降(視程計)で、観測方法が異なる。 資料：気象庁

(2) 大気の状態

ア 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値（市役所測定局）

年 次	一酸化窒素(ppm)	二酸化窒素(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子物質(mg/m3)
2003 年	0.003	0.009	0.003	0.019
2004 年	0.004	0.009	0.002	0.019
2005 年	0.005	0.012	0.002	0.020
2006 年	0.004	0.008	0.002	0.019
2007 年	0.004	0.007	0.002	0.017
2008 年	0.001	0.007	0.002	0.018
2009 年	0.003	0.007	0.002	0.015
2010 年	0.002	0.006	0.001	0.022
2011 年	0.003	0.007	0.001	0.018
2012 年	0.001	0.007	0.001	0.020
2013 年	0.001	0.006	0.001	0.022

2014 年	0.001	0.005	0.001	0.019
2015 年	0.001	0.004	0.001	0.019
2016 年	0.001	0.004	0.001	0.018
2017 年	0.000	0.004	0.001	0.016
2018 年	0.000	0.001	0.001	0.018

資料：兵庫県環境白書

イ 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道 312 号小尾崎測定局）

年 次	一酸化窒素 (ppm)	二酸化窒素 (ppm)	一酸化炭素 (ppm)
2003 年	0.010	0.017	0.6
2004 年	0.008	0.016	0.5
2005 年	0.007	0.015	0.5
2006 年	0.006	0.013	0.5
2007 年	0.006	0.012	0.4
2008 年	0.005	0.011	0.4
2009 年	0.004	0.009	0.4
2010 年	0.003	0.008	(0.3)
2011 年	0.005	0.009	0.3
2012 年	0.004	0.008	0.3
2013 年	0.003	0.005	0.3
2014 年	0.003	0.007	0.3
2015 年	0.003	0.006	0.2
2016 年	0.003	0.006	0.3
2017 年	0.002	0.005	0.4
2018 年	0.002	0.005	0.5

※（ ）は、有効測定時間数（6000 時間／年）に達していない値を示す。

資料：兵庫県環境白書

（３） 河川の水質〔BOD（生物化学的酸素要求量）75％値〕の推移

（単位：mg／l）

年 次	河川・観測地点(環境基準)		
	円山川上流上ノ郷(2.0mg/l)	円山川下流立野大橋(3.0mg/l)	竹野川竹野新橋(2.0mg/l)
2006 年	0.6	0.6	0.0
2007 年	0.6	0.5	0.5
2008 年	0.6	0.5	0.5
2009 年	0.5	0.5	0.0
2010 年	0.6	0.6	0.6
2011 年	0.6	0.8	0.0
2012 年	0.8	0.8	0.4
2013 年	0.6	0.8	0.0
2014 年	0.7	1.1	0.5
2015 年	0.6	1.2	0.7
2016 年	0.5	0.9	0.5

2017 年	0.7	0.8	0.5
2018 年	0.6	0.7	0.5

資料：兵庫県環境白書

2 コウノトリ

(1) コウノトリの野生復帰の歩み

年 次	コウノトリの野生復帰の歩み
1955 年	・コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開
1956 年	・コウノトリは 20 羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける
1962 年	・兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける
1963 年	・コウノトリは 11 羽に減少 ・巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定
1964 年	・コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手
1965 年	・野上地区にコウノトリ飼育場が完成 ・一つがいを保護し、人工飼育スタート
1971 年	・野生最後の 1 羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅
1985 年	・ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥 6 羽を受贈
1986 年	・豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡
1989 年	・人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功
1992 年	・野生復帰構想スタート
1994 年	・飼育下第 3 世代が誕生 ・「第 1 回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
1997 年	・県立コウノトリの郷公園の整備に着工
1998 年	・増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは 50 羽を超える
1999 年	・県立コウノトリの郷公園が開園
2000 年	・市立コウノトリ文化館が開館 ・「第 2 回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
2001 年	・飼育コウノトリが 80 羽を超える
2002 年	・飼育コウノトリが 100 羽を超える ・野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する
2003 年	・県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定 ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される ・市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録 ・「コウノトリと共生する水田づくり」を始める
2004 年	・「コウノトリファンクラブ」が発足する
2005 年	・9 月 24 日コウノトリ 5 羽を自然放鳥 ・「第 3 回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催
2006 年	・野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する ・放鳥拠点(祥雲寺)から 2 羽が巣立ち(段階的放鳥) ・飼育コウノトリ 3 羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ 4 羽を段階放鳥

年 次	コウノトリの野生復帰の歩み
2007 年	・ 5 月 20 日国内の野外で 43 年ぶりにひな 1 羽が誕生し、7 月 31 日 46 年ぶりに巣立つ ・ 飼育コウノトリ 3 羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の 2 羽を放鳥
2008 年	・ 5 月 20 日を「生きもの共生の日」と定める ・ 野外で 8 羽のひなが巣立つ ・ 放鳥拠点(三木)から 2 羽が巣立ち(段階的放鳥)
2009 年	・ 市立ハチゴロウの戸島湿地オープン ・ 野外で 9 羽のひなが巣立つ ・ 放鳥拠点(唐川)の 2 羽を放鳥
2010 年	・ 第 4 回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 ・ 野外で 9 羽のひなが巣立つ
2011 年	・ 兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」を発表 ・ 福井県越前市に 1 ペア(2 羽)を移送 ・ 野外で 9 羽のひなが巣立つ
2012 年	・ 7 月 3 日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録 ・ 放鳥コウノトリに 3 世誕生 ・ 野外で 14 羽のひなが巣立つ
2013 年	・ 豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち ・ 野外で 22 羽のひなが巣立つ
2014 年	・ 豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来 ・ 第 5 回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表) ・ 野外で 16 羽のひなが巣立つ
2015 年	・ 7 月 23 日千葉県野田市で 3 羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥) ・ 9 月 3 日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8 羽を放鳥) ・ 10 月 3 日福井県越前市白山区で 2 羽のコウノトリを放鳥 ・ 野外で 13 羽のひなが巣立つ
2016 年	・ 韓国で放鳥されたコウノトリからひなが誕生し、巣立つ ・ 野外で 12 羽のひなが巣立つ
2017 年	・ 国内野外で生息するコウノトリが 100 羽を突破 ・ 徳島県鳴門市で、豊岡盆地周辺以外で初のひな誕生 ・ 野外で 25 羽のひなが巣立つ
2018 年	・ 野外で 24 羽のひなが巣立つ
2019 年	・ 野外で 46 羽のひなが巣立つ

(2) コウノトリの羽数 (2020 年 5 月 1 日現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	95 羽
野外で生息する個体 (ひなを除く)	174 羽
飛来した野生個体	— 羽
合 計	269 羽

資料：県立コウノトリの郷公園

3 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯および人口の推移（各年 10 月 1 日現在）

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口（人）			1 世帯当 りの人員	年齢別人口（人）		
			総数	男	女		14 歳以下	15～64 歳	65 歳以上
◎1995 年	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230
◎2000 年	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎2005 年	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎2010 年	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
2011 年	697.66	29,865	84,876	40,478	44,398	2.84	－	－	－
2012 年	697.66	29,800	84,116	40,167	43,949	2.82	－	－	－
2013 年	697.66	29,856	83,338	39,808	43,530	2.79	－	－	－
2014 年	697.66	29,983	82,462	39,405	43,057	2.75	－	－	－
◎2015 年	697.55	30,152	82,269	39,497	42,772	2.73	公表未	公表未	公表未
2016 年	697.55	30,278	81,391	39,071	42,320	2.69	－	－	－
2017 年	697.55	30,456	80,595	38,682	41,913	2.65	－	－	－
2018 年	697.55	30,546	78,571	37,841	40,730	2.57	－	－	－
2019 年	697.55	30,586	78,299	37,726	40,573	2.56	－	－	－

※本表は 5 年毎の国勢調査結果および兵庫県推計人口結果

◎は国勢調査結果（2015 年は速報値）

(2) 産業別就業者数

(単位：人)

年次	第 1 次	第 2 次	第 3 次	分類不能	計
1990 年	5,453	17,921	26,217	48	49,639
1995 年	4,823	17,129	27,834	20	49,806
2000 年	3,581	15,485	28,179	143	47,388
2005 年	3,544	13,485	28,088	73	45,190
2010 年	2,873	11,196	26,743	864	41,676
2015 年	公表未	公表未	公表未	公表未	公表未

資料：国勢調査

4 森林面積

(1) 樹種別森林面積

(単位：ha)

年次	針葉樹	広葉樹	その他	計
2007 年	26,025	27,400	1,115	54,540
2008 年	26,070	27,351	1,116	54,537
2009 年	26,076	27,345	1,116	54,536
2010 年	26,076	27,345	1,116	54,536
2011 年	26,077	27,336	1,117	54,530
2012 年	26,077	27,336	1,117	54,530
2013 年	26,062	27,306	1,142	54,510
2014 年	26,092	27,297	1,148	54,537
2015 年	26,091	27,297	1,149	54,537

2016 年	26,092	27,285	1,160	54,537
2017 年	26,097	27,279	1,142	54,518
2018 年	26,104	27,272	1,142	54,518

※端数処理の関係で合計数値が合わない

資料：兵庫県森林GISシステム

(2) 所有者別森林面積 (2017 年 3 月 31 日現在)

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	2,027	2,113	87	4,227
私有林	24,070	25,167	1,056	50,291
共有林	0	0	0	0
総数	26,097	27,280	1,143	54,518

※端数処理の関係で合計数値が合わない

資料：農林水産課

(3) 林業就業者数

2005 年	2010 年	2015 年
26 人	101 人	68 人

資料：国勢調査 (2010 年から集計方法変更。農家林家を含む)

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)	年度	面積 (ha)
2010 年	723	2015 年	401
2011 年	890	2016 年	300
2012 年	515	2017 年	268
2013 年	519	2018 年	306
2014 年	498	2019 年	316

※市、公社、民間等の分収造林すべてを含む

資料：北但東部森林組合

5 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

年次	専業	1 種兼業	2 種兼業	自給的農家	計
1985 年	585	855	6,930		8,370
1990 年	647	562	6,251		7,460
1995 年	617	648	5,496		6,761
2000 年	468	361	3,703	1,732	6,264
2005 年	546	296	2,936	2,021	5,799
2010 年	570	304	2,270	2,088	5,232
2015 年	472	303	1,768	1,912	4,455

※2000 年から自給的農家の専兼業別調査の簡素化

資料：農林業センサス

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積 (2017) (単位 農家数：戸、面積：ha)

区 分	総 数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕田	
	農家数	面 積	農家数	面積	農家数	面 積	農家数	面 積	農家数	面 積
2005 年	－	3,880	3,713	2,759	2,678	268	251	42	1,280	218

区 分	総 数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕田	
	農家数	面 積	農家数	面積	農家数	面 積	農家数	面 積	農家数	面 積
2010 年	3,181	3,651	3,098	2,719	2,227	215	212	30	1,054	208
2015 年	2,593	3,468	2,518	2,730	1,605	201	151	26	595	118

資料：農林業センサス

6 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数（戸）			漁獲量（t）			漁獲高（万円）		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
2006 年	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
2007 年	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
2008 年	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
2009 年	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
2010 年	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
2011 年	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
2012 年	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
2013 年	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
2014 年	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
2015 年	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568
2016 年	145	89	56	2,534	2,295	239	183,870	173,344	10,526
2017 年	137	81	56	2,193	1,963	230	177,465	167,947	9,518
2018 年	134	79	55	1,750	1,529	221	183,772	172,648	11,124
2019 年	133	78	55	2,078	1,818	260	181,859	170,254	11,605

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

7 ごみ

(1) ごみ収集量 (単位：t) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
2007 年	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
2008 年	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
2009 年	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
2010 年	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
2011 年	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
2012 年	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5
2013 年	28,362	15,353	13,009	86,173	329.1
2014 年	28,568	15,130	13,438	85,244	335.1
2015 年	28,934	14,925	14,009	84,337	343.1
2016 年	27,185	14,782	12,403	83,544	325.4
2017 年	26,776	14,537	12,239	82,624	324.1



年度	計	計画収集	一般搬入
2018 年	26,603	14,408	12,195
2019 年	26,806	14,479	12,327

※清掃土砂、災害ごみを除く

資料：生活環境課

人口	1 人あたり
81,416	326.7
80,416	333.3

※コウノトリ共生課で作成

(2) ごみ種別搬入量

(単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びんかん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
2007 年	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
2008 年	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
2009 年	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
2010 年	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412
2011 年	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
2012 年	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
2013 年	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
2014 年	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
2015 年	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0
2016 年	24,507	1,549	582	86	339	122	27,185	0
2017 年	24,055	1,606	576	90	330	119	26,776	0
2018 年	23,805	1,713	556	95	319	115	26,603	0
2019 年	23,886	1,868	537	91	313	111	26,806	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量

(単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
2007 年	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
2008 年	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
2009 年	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
2010 年	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
2011 年	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
2012 年	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
2013 年	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
2014 年	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
2015 年	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
2016 年	655	2,384	81	1	10	42	8	2,526
2017 年	672	2,312	75	1	9	44	7	2,448
2018 年	655	2,215	74	0.9	7	40	7	2,344
2019 年	646	2,107	81	1	5	38	5	2,237
補助金単価 (※1)	6 円	5 円	5 円	5 円	5 円	5 円	5 円	
補助金単価 (※2)	7 円	7 円	2 円	2 円	2 円	2 円	7 円	

※1 1kg 当たりの単価。ビン類(1 升ビン、ビール瓶が対象)は2 本を 1kg に換算。

資料：生活環境課

※2 2012 年度から補助金単価を変更。

8 文化財

(1) 指定文化財

(2020年3月31日現在)

種別等			国	県	市	計
有形文化財	建造物	建造物	6	6	43	55
	美術工芸品	絵画	1	6	18	25
		彫刻	4	13	30	47
		工芸品	1	1	18	20
		書跡・典籍	－	1	31	32
		古文書	－	－	8	8
		考古資料	－	6	15	21
		歴史資料	－	1	3	4
無形文化財		無形文化財保持者	－	－	1	1
民俗文化財		有形民俗	－	1	7	8
		無形民俗	－	2	9	11
史跡名勝 天然記念物		史跡	2	6	30	38
		名勝	1	3	8	12
		天然記念物	2	12	20	34
		〃（地域を定めず）	7	－	－	7
		特別天然記念物	－	－	－	－
		〃（地域を定めず）	2	－	－	2
伝統的建造物群		伝統的建造物群保存地区	1	－	－	1
登録有形文化財		建造物	20	1	－	21
合 計			47	59	241	347

資料：文化財室

(2) 無形民俗文化財

《まちの祭礼》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	柳まつり	柳の宮(小田井神社境内)	柳まつり実行委員会祭典部・豊岡おどり部
	豊岡のだんじりパレード		豊岡小学校、同PTA、豊岡市市街地区長会、青少年健全育成豊岡会議
城崎	城崎温泉まつり	四所神社	四所神社氏子総代会、城崎温泉観光協会
	温泉寺開山忌	温泉寺	温泉寺奉賛会主催
	城崎のだんじり祭り	四所神社	四所神社氏子
出石	有子山稲荷神社の初午祭	有子山稲荷神社	弘道地区十六区(氏子)、商工会
	出石だんじり祭り	石部神社、諸杉神社、伊福部神社	出石だんじり祭り実行委員会
	諸杉神社の秋祭り	諸杉神社	諸杉神社氏子
	出石大名行列槍振り		出石大名行列保存会

資料：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016年度作成)

《民俗芸能》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	法花寺万歳		法花寺万歳保存会
	雷神社の御田植祭	雷神社	雷神社氏子
	奈佐節(六条さん)		奈佐節保存会
	森尾の盆踊り		森尾盆踊り保存会
竹野	轟の古代太鼓踊り	蓮華寺(真言宗)	蓮華寺古代太鼓踊保存会・僧侶
	轟・森神社の獅子舞と大神楽	森神社(旧 式内社阿古谷神社)	轟太鼓神楽保存会
	森本の盆踊りと変装踊り		森本区長・森本盆踊り保存会
	田久日の盆踊り		田久日区民
日高	気多神社秋祭りの獅子舞		気多神社太神楽保存会
	鶴岡大祭と太神楽	井田神社	鶴岡大祭実行委員会
出石	箱根神社のお田植えさん	箱根神社	福居区
	大日神社の奉納獅子舞(魔絶)		百合区
	出石盆踊り		出石町盆踊り大会実行委員会
但東	大生部兵主神社の春祭りの練り込み太鼓と浦安の舞	大生部兵主神社	大生部兵主神社氏子ほか
	栗尾の練り込み太鼓	愛宕神社、清滝神社、日足神社	栗尾練り込み太鼓保存会
	新宮神社秋祭り と 東中・小坂の練り込み太鼓	新宮神社	
	赤野の太刀振り	赤野神社	赤野太刀振り保存会
	如布神社の秋祭り・如布神楽	如布神社	地域内氏子

資料：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016 年度作成)

《各地区の氏神・子祠・堂の祭祀と年中行事》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	庚申堂の星祭り	庚申堂、京口会館	星祭祭典員会、京口区、京寿会、婦人会、壮和会
	兵主神社の千本杵餅つき	式内兵主神社	赤石区
	中嶋神社菓子祭	中嶋神社	中嶋神社、奉賛会、氏子
	絹巻神社の子供奉納相撲	絹巻神社	絹巻神社、港地区の各区、港こども育成会
	ゑびす大祭 宝恵駕籠行列	小田井神社境内ゑびす神社	小田井神社奉賛会
	女代神社の茅の輪くぐり	女代神社	女代神社氏子
	江月寺の祇園さん・数珠繰り	江月寺	長松寺(下鶴井)
	気比の精霊送り		気比区、気比育成会
	田結の地藏盆	六地藏堂	大師講の講員と仏教婦人会の有志
	長谷の万灯		長谷区万灯実行委員会
	中郷の秋祭り・ジジババオコシ	葦田神社	中郷区
城崎	楽々浦・鼻かけ地藏の祭り	地藏堂	鼻かけ地藏尊奉賛会
	来日の地藏盆		口組の戸主を中心に、子供会・老人会が参加

地域	名称	寺・神社	主体
	久流比神社の秋祭り・ふみこし	久流比神社	久流比神社氏子
	青山神社の秋祭り・だんじり祭り	青山神社、天満社	青山神社氏子、天満社氏子
竹野	床瀬の狗留尊仏祭り		床瀬区
	松本・十二薬師堂の数珠繰り (百万遍念仏)	十二薬師堂	松本区
	芦谷の不動尊祭り(お不動さん)		芦谷区
	興長寺の目の薬師の縁日	興長寺	興長寺境内の薬師堂
	田久日の村施餓鬼		田久日区
	轟の寺施餓鬼	蓮華寺	轟・鬼神谷・駅前・林・恵日・東大谷・下塚の各区
	竹野の浜施餓鬼		但馬漁業協同組合竹野支所
	森本の地蔵講(数珠繰り)	地蔵堂	女性の有志
	森本の地蔵盆		森本区長、森本盆踊り保存会
日高	宵田の十日恵比寿祭り	日枝神社末社 恵比寿神社	宵田区
	田ノ口の塞の神祭り	清滝神社	田ノ口区
	ばば焼き(御柱祭り)	十二所神社	松岡区
	山田の花まつり		山田区
	お薬師さんのご開帳・すり焼き	国分寺	国分寺
	石龍神社の子供奉納相撲	石龍神社	久斗子供会、久斗相撲保存会
	浅倉の川濯祭り	兵主神社末社 水無月神社	浅倉区
	伊府の数珠繰り		老人会、子供会
	夏栗の弘法大師祭(二十日盆・盆踊り)	善福寺	夏栗区、子供会は共催
	上石の地蔵祭り(水生地蔵)	清水場、岩盤の祠	上石区
	奈佐路の地蔵祭		奈佐路区
	広井の万灯火祭り	権現山の火災不動、広井地区のお堂	広井区民(男性)
	山田の秋祭りと大日堂の法要	吉野神社、三柱神社、大日堂	山田区
	須谷神社の秋祭り	須谷神社	藤井区民
	西芝のだんじり祭り	須賀神社	西芝区
出石	幟回し	出石神社	宮内少年会
	袴狭の川下祭り	川下神社	袴狭区、白糸会
	伊豆の甚五郎万灯		伊豆区
	平田の地蔵盆(廻り地蔵)ほか		諏訪
	愛宕の火祭り	伊福部神社、愛宕神社	御神火会、愛宕火祭り奉賛会
	片間の万灯		片間地区隣保
	福見妙見堂の妙見さん		福見区
	鍛冶屋の八朔の大綱引き		鍛冶屋区文化部、子供会
	御出石神社・貴船神社の秋祭り	御出石神社、貴船神社	桐野区、寺坂区、中野区、日野辺区

地域	名称	寺・神社	主体
但東	但馬天満宮の学業成就合格祈願祭	但馬天満宮	奥矢根区
	福寿稲荷の初午	稲荷社	坂野区
	赤花の鬼子母神祭	法華寺	法華寺
	栗尾の薬師祭り	松禪寺	薬師堂、栗尾ふるさと委員会ふるさと一三五
	久畑・愛宕神社の夏祭り	一宮神社、一願不動尊	久畑区(祭礼)、けやきの会
	虫生の万灯		虫生区の青年層
	日出神社の千本餅つき	日出神社	南尾区、出合区、日殿区、出合市場区

資料：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016 年度作成)

9 エネルギー

(1) 電灯・電力消費量

(単位：千 kWh)

年度	総 量	電 灯	電 力	その他
2010 年	296,084	254,286	41,798	非公表
2011 年	287,049	247,345	39,704	非公表
2012 年	278,367	240,801	37,566	非公表
2013 年	274,968	236,386	35,923	非公表
2014 年	262,558	226,692	33,736	非公表
2015 年	253,508	218,858	32,725	1,925
2016 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2017 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2018 年	非公表	非公表	非公表	非公表
2019 年	非公表	非公表	非公表	非公表

※電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯

資料：関西電力株式会社

※電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力

※その他とは、建設工事中、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力

※特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

※2016 年度から、一般家庭の電力も自由化対象となり非公表

(2) ガスの業種別需要状況

(単位：千 m³)

年度	総 数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2010 年	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
2011 年	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
2012 年	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378
2013 年	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
2014 年	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
2015 年	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243
2016 年	7,589	2,394	5,195	2,779	16	2,400
2017 年	7,668	2,462	5,205	2,786	15	2,404

年度	総 数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2018 年	7,435	2,289	5,145	2,813	16	2,316
2019 年	7,327	2,243	5,084	2,812	15	2,256

※供給ガスの熱量は 45MJ/m³ (10,750Kcal/m³)

資料：(株)豊岡エネルギー

(3) 太陽光発電システム設置状況

(単位 出力：kW；削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO ₂ 削減量	出力	CO ₂ 削減量
2006 年	106.7	33.6	3.0	0.9
2007 年	87.7	27.6	4.1	1.3
2008 年	121.2	38.1	18.3	5.8
2009 年	254.4	67.4	7.0	1.9
2010 年	301.4	79.9	399.7	105.9
2011 年	350.5	98.5	23.8	6.7
2012 年	407.6	168.8	695.6	288.0
2013 年	346.8	164.8	1003.1	476.5
2014 年	131.1	67.6	5.5	2.8
2015 年	147.2	77.0	1123.1	587.4
2016 年	161.8	80.3	24.6	12.2
2017 年	201.1	99.7	0.0	0.0
2018 年	124.0	64.2	35.0	18.1
2019 年	113.2	56.1	0.0	0.0
計	2,851.1	1,121.8	3,342.8	1,507.5

※CO₂削減量は環境省のデータにより算出

資料：コウノトリ共生課

10 下水道普及率

年 度	処理区域 (ha)	供用開始人口 (人)	普及率 (%)	水洗化済人口 (人)	水洗化率 (%)
2010 年	3,077	87,789	99.9	78,869	89.8
2011 年	3,083	87,003	99.9	78,740	90.5
2012 年	3,085	86,917	99.9	79,364	91.3
2013 年	3,089	86,165	99.9	78,957	91.6
2014 年	3,090	85,236	99.9	78,323	91.9
2015 年	3,094	84,333	99.9	78,083	92.6
2016 年	3,094	83,549	99.9	77,644	92.9
2017 年	3,096	82,055	99.9	76,724	93.5
2018 年	3,096	80,868	99.9	75,813	93.7
2019 年	3,099	79,855	99.9	75,315	94.3

資料：下水道課

第4部 市の取組み実績

■市の取組みについて

環境基本計画第5章「取組みの方向と行動指針」に基づき、市の取組み実績を整理しています。

行動指針 1 森林を利用し、保全します

(1) 自然豊かな森林の保全、創造

- ①多様な動植物の生息・生育環境を守るため、森林の保全
- ②無秩序な森林開発を抑制
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め森林の保全

の設置・利用促進

(3) 災害に強い森づくり

土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進

(5) 森林の持つ多面的機能などのPR

森林の持つ多面的機能など、森林の適正管理の重要性についてのPR

(2) 地元産材の利用促進

- ①地元産、国内産の木材を利用
- ②ペレットストーブや薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器

(4) 森林での自然体験、ボランティア活動

- ①森林を体験学習、保健休養の場として活用
- ②間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討

(6) 森林を活用する新たな方法の研究と実用化

森林ツーリズムなど、新たな活用方法を検討

《行動指針 1 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
除間伐等面積(市行造林)(ha)	73.57	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	32.32	26.00	23.69	55.54	農林水産課
間伐材による土留工数(箇所)	102	192	188	158	107	56	22	24	20	22	20	37	35	農林水産課
広葉樹植樹面積(ha)	0.90	1.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	農林水産課
〃 苗木提供数(本)	420	300	137	117	86	130	53	35	60	40	30	35	30	農林水産課
豊岡産ペレット製造量(t)					293	516	644	684	534	382	337	288	131	農林水産課
市施設木造・木質化・ペレットストーブ導入数														
(新築)(棟)	1	5	3	0	4	2	1	4	1	3	2	1	0	建築住宅課
(増築)(棟)	0	3	1	2	1	2	1	1	0	1	0	0	0	建築住宅課
ペレットストーブ設置数(台)	1	5	3	0	4	27	0	18	0	0	0	0	0	農林水産課
ペレットボイラー設置数(台)			1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	農林水産課
特用林産物生産量(kg)										420,786	461,151	397,808	378,181	農林水産課
住宅用ペレットストーブ設置補助数(件)					6	5	8	17	8	7	9	7	5	コウノトリ共生課
〃 補助金額(万円)					102	90	143	282	138	129	151	124	99	コウノトリ共生課
住宅用ペレットボイラー設置補助数(件)						0	0	0	0	0	0	0	0	コウノトリ共生課
〃 補助金額(万円)						0	0	0	0	0	0	0	0	コウノトリ共生課
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)							5	22	14	11	9	9	12	コウノトリ共生課
〃 補助金額(万円)							99	435	280	220	180	180	236	コウノトリ共生課
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)							0	2	0	0	0	0	0	コウノトリ共生課
〃 補助金額(万円)							0	34	0	0	0	0	0	コウノトリ共生課
奈佐森林公園利用者数(人)	5,036	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	5,532	4,084	4,492	4,255	農林水産課
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	6	5	7	6	6	7	6	7	6	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	79	91	96	84	103	120	169	91	117	122	115	118	95	竹野 地域振興課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
竹伐採ボランティア数(人)	32	25	15	—	49	116	123	105	19	0	0	0	0	コウノトリ共生課

行動指針2 川や海などの水辺環境を保全します

(1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくりを促進
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺の保全を促進

②海などでの漂着ごみの撤去

- ③川や海に流れ込む草、わらを削減するよう啓発
- ④川や海にごみを捨てないよう啓発
- ③稚魚の放流など水産資源の維持育成を促進
- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用を支援

②節水や水の再利用

- ③下水道の整備、利用促進により水質の悪化を防止
- ④農業排水による川の水の濁り防止について啓発

(2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

多様な生きものが生息できる水辺づくりを促進

(5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業（自主的な採捕制限）を促進
- ②魚礁の設置など自然環境に配慮した漁場の拡大

(3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進

(4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質の向上、水量の確保

《行動指針2に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
湿地管理ボランティア数(人)			457	521	190	208	312	212	249	402	457	426	475	コウノトリ共生課
漁港漂着ごみ清掃委託数(箇所)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)				34.88	28.84	0	13.90	30.90	5.10	16.32	17.69	21.88	34.09	生活環境課
不法投棄監視カメラ(台)				6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	生活環境課
不法投棄防止看板設置・配布数(枚)	28	56	44	16	70	50	40	40	30	15	55	79	67	生活環境課
上水道配水量(1人/日)(ℓ)	438	439	434	440	429	424	427	423	426	421	424	428	431	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(ℓ)	419	412	395	411	399	398	395	392	416	423	(※)			
水洗化率(%)	86.2	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	93.5	93.7	94.3	下水道課
(公共下水道)	85.5	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	92.7	93.3	93.7	94.3	
(集落排水等)	88.6	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	93.9	94.3	93.9	94.2	
魚礁設置数(個)	113	0	98	120	0	0	110	88	57	48	44	64	32	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)	81	188	191	173	191	191	191	191	191	191	167	183	185	農林水産課

※簡易水道事業は、2017年度から上水道事業に統合。

行動指針 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します

(1) 環境創造型農業の推進

- ①農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ②多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため、農地の保全を促進
- ③「コウノトリ育む農法」を推進し、たくさんの生きものが住む農地の拡大を促進
- ④田んぼに生きものが生息できるための魚道等の整備を促進

⑤耕作放棄地の拡大防止

(2) 元気が出る農業づくりの推進

- ①安全・安心な農産物生産を促進
- ②消費者と農業者との交流を促進
- ③県(森林動物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除

④シカ肉やイノシシ肉などの食材としての利用拡大策を検討

(3) 畜産業の振興

家畜ふん尿をたい肥として利用する耕畜連携を促進

(4) グリーンツーリズムの推進

農家民宿、市民農園などによる体験交流型農業を促進

《行動指針 3に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
コウノトリ育む農法作付面積(ha)	157.0	183.1	212.3	219.5	234.1	251.6	269.7	292.7	329.3	366.1	407.1	418.8	428.0	農林水産課
農地・水・農村環境保全活動組織(組織)	133	133	133	133	133	114	116	116	124	133	125	121	116	農林水産課
冬期湛水水田面積(ha)	20.4	64.8	72.2	83.5	137.0	189.3	212.4	251.7	254.3	401.1	423.02	438.1	407.7	農林水産課
育むお米 取扱店舗数(店舗)			325	400	500	500	500	500	500	500	500	500	—	農林水産課
魚道設置箇所(累計)(箇所)	106	107	110	111	111	111	111	112	141	140	140	151	152	農林水産課
コウノトリの舞 認証団体数(団体)	39	43	41	44	46	49	52	55	54	53	52	50	50	農林水産課
〃 農産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	20	
〃 食品数(食品)			1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	2	
J A たじま作物別生産部会数(部会)	33	33	33	27	27	27	27	27	34	34	34	34	34	農林水産課
中山間地域等生産活動支援地区数(地区)	39	39	38	32	32	32	36	36	40	40	40	41	41	農林水産課
農地転用面積(許可書交付)(ha)		10.5	6.4	6.1	4.9	7.9	8.5	6.9	6.4	7.8	6.3	10.1	6.9	農業委員会
遊休農地面積(調査時の概括)(ha)		116.5	132.5	132.8	127.7	100.6	68.8	66.9	71.6	64.1	76.1	83.0	92.8	農業委員会
耕畜連携堆肥利用事業面積(ha)	125.0	135.4	152.2	152.8	150.8	165.1	167.2	181.3	148.4	164.9	170.3	183.5	190.2	農林水産課
市民農園設置数(箇所)	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	農林水産課
同区画数(区画)	326	371	253	253	253	253	213	213	213	213	345	345	345	
同利用区画数(区画)	192	137	194	194	194	201	185	133	170	138	138	138	118	
農家民宿数(戸)	5	5	5	5	5	5	5	4	4	—	3	4	3	農林水産課

- ・湿地整備は行動指針 2 に記載
- ・有害鳥獣の駆除、防除は、行動指針 5 に記載

行動指針 4 農林水産業の新たな担い手を育成します

(1) 農林水産業の担い手育成

豊岡農業スクールなどにより、農林水産業の担い手の育成、確保

(2) 農林水産業の就業環境改善支援

技術指導や住宅提供など、新規就労者への生活支援

(3) 農林水産業の魅力の発信

豊岡における農林水産業の魅力を、広く全国にPR

《行動指針 4 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
農業スクール研修生(人)							3	2	2	3	4	6	7	農林水産課
認定農業者数(経営体)	110	116	110	113	115	119	122	134	132	131	129	133	134	農林水産課
集落営農組織数(集落)	32	37	39	40	41	41	45	49	52	53	55	57	56	農林水産課
農業法人数(法人)	10	11	11	13	16	19	19	20	21	24	27	30	30	農林水産課
林業法人数(法人)	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	農林水産課

行動指針 5 生き物がバランス良く生息する自然環境を保全します

(1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ①ビオトープづくりを推進
- ②農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ③自然環境に配慮した多自然型の工事
- ④開発にあたっては、野生動植物の生息・生育環境に配慮し、保全
- ⑤生きものとふれあう体験学習の場を提供

(2) 野生動植物の保護

- ①野生動植物の生息・生育状況を調査し、情報を提供
- ②希少動植物を保護
- ③ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発
- ④地域固有の生態系を保全するため、外来種を持ち込まないよう啓発
- ⑤シカやイノシシ、クマなどの生息環境を保全し、健全な里山づくり

(3) 野生動物対策の推進

県(森林動物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除

(4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

- ①コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全
- ②コウノトリ野生復帰の取組みの様々な情報を発信

《行動指針 5 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
ビオトープ水田面積(ha)	16.0	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	12.6	12.6	11.4	13.1	コウノトリ共生課
生きものとふれあう体験学習(公民館)(館)	3	5	5	5	6	7	7	6	5	2	3	4	3	コウノトリ共生課
〃(小学校)(校)	1	4	5	14	12	20	16	17	13	12	10	11	12	コウノトリ共生課
コウノトリKIDSクラブ(人)				14	24	19	12	12	16	5	5	21	18	コウノトリ共生課
コウノトリKIDSクラブ(回)				7	9	8	8	8	9	8	10	10	8	コウノトリ共生課
コウノトリ情報誌「FLY TO THE WILD」発行(回)	4	4	4	3	3	1	0	0	0					コウノトリ共生課
小さな自然再生活動支援助成事業(件)					2	3	1	4	8	10	9	14	12	コウノトリ共生課
ペット飼育マナー啓発(広報掲載)(回)	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
〃(チラシ配布)(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
外来種(魚)駆除回数(回)		1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	0	コウノトリ共生課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
防護柵設置延長(補助金分)(m)	43,021	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,713	93,452	91,727	46,260	24,058	農林水産課
〃 地区数(地区)	48	32	47	22	57	29	17	21	29	41	37	18	18	
〃 個人数(人)		57	76	42	104	62	28	59	59	51	48	22	16	
防護柵、捕獲柵等補助金額(万円)	726	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,597	9,437	13,277	5,853	4,932	農林水産課
有害鳥獣駆除数 シカ(頭)	1,410	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	4,247	4,476	4,142	4,452	農林水産課
〃 イノシシ(頭)	559	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	1,340	988	891	1,624	
〃 その他(頭)	125	95	85	138	85	122	101	183	308	435	645	1,373	1,922	
バッファゾーン整備面積(ha)			19.34	18.93	17.4	26.49	15	15	15	0	0	0	0	農林水産課
〃 箇所数(箇所)			4	5	6	5	3	5	5	0	0	0	0	

行動指針 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります

(1) 大気汚染の防止

- ①大気汚染物質の発生防止を指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止を指導、啓発
- ③公共交通機関の利用を促進
- ④アイドリングストップなどエコドライブを推進
- ⑤粉塵の発生防止を指導、啓発

(2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止を指導、啓発
- ②保有車両を適正に点検、整備

(3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止を指導、啓発

- ②家畜ふん尿等の適正処理を指導、啓発

(4) 地盤沈下の防止

- 地下水の利用抑制を促進

(5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害の発生を防止し、監視や指導、啓発
- ②公害防止協定の締結により、公害の未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査を定期的を実施公表

(6) 有害化学物質の適正な管理

- 有害化学物質の適正な管理を指導

(7) 光害の低減

- 光害の低減を検討

(8) 災害時の廃棄物処理

- 廃棄物処理に関する応援協定を踏まえ、災害時の廃棄物の適正な処理

(9) 備蓄物資の適正配置及び循環利用の啓発

- 備蓄物資の適正配備及び循環利用の啓発に努めます

(10) 災害に強い森づくり

- ①間伐材も含めた地元産木材の利用を促進します。
- ②土砂災害防止、水源かん養林など、森林の有する機能の維持増進
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め、森林の保全

《行動指針 6 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
大気汚染の苦情受理件数(件)	6	6	9	9	5	15	5	11	20	11	12	13	10	生活環境課
J R 豊岡市民号利用者数(人)	208	147	142	107	75									都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数(人)	37,257	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	56,100	57,889	52,574	48,254	都市整備課
市営バス(イナカー)利用者数(人)		51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	59,130	59,459	53,622	47,332	
市職員「e通勤」実施者数(人)		49	529	459	449	438	419	417	405	396	396	383	377	都市整備課
豊岡ノーマイカーデー参加者数(人)						1,181	2,133	1,415	1,697	1,584	1,565	1,445	1,193	都市整備課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
特定建設作業の届出件数(件)	717	644	619	511	549	528	636	520	395	433	431	645	648	生活環境課
騒音・振動等特定施設届出施設数(施設)	50	41	16	33	54	25	28	28	43	34	32	23	20	生活環境課
騒音・振動の苦情受理件数(件)	5	6	6	4	5	3	5	1	5	4	2	6	6	生活環境課
悪臭の苦情受理件数(件)	6	5	8	9	6	8	4	7	12	6	6	7	11	
水質・土壌汚染苦情受理件数(件)	20	20	15	13	16	7	1	4	4	7	10	10	6	

行動指針 7 地域の文化や景観を保全し、活用します

(1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動
- ②開発する際には文化財を保護
- ③文化、歴史の講座を開催

(2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承を支援

(3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化を支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくりを推進
- ②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用
- ③地域の特色ある景観の保全を促進
- ④開発時には、地域の景観に配慮
- ⑤地域の植生にあった植栽
- ⑥屋外広告物、自動販売機の設置の抑制を検討
- ⑦地域の地形、地質を考えた土地の利用を促進
- ⑧地域の風土に合った住宅の建設を促進
- ⑨地元産材など昔からあった素材の使用を促進

(5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくりを推進
- ②街路樹等の適切な管理
- ③地域の緑化や花づくり活動を促進
- ④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組みを促進

(6) 緑豊かな公園の整備

- ①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮
- ②自然環境、地形、地域の植生に配慮
- ③開発にあたっては公園の整備
- ④公園の清掃、適正管理

《行動指針 7 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
遺跡確認調査件数(件)	7	7	5	5	3	12	8	12	13	16	12	11	9	文化財室
文化財防災訓練数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	文化財室
文化財パトロール数(件)	—	—	226	162	177	107	121	112	125	—	—	—	—	文化財室
文化財保護補助金交付数(件)	12	13	14	13	9	7	12	5	6	7	6	4	8	文化財室
〃 補助金額(万円)	16	30	518	251	193	33	77	608	1,392	112	24	6	43	
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	14	6	9	6	6	8	3	3	14	14	10	11	13	文化財室
発掘調査現地説明会数(回)	—	2	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0	0	文化財室
但馬国府・国分寺館公開講座数(講座)	6	3	4	3	12	11	16	19	11	19	19	5	5	文化財室
〃 参加者数(延べ)(人)	332	290	552	238	389	248	417	323	305	643	770	124	147	

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
日本・モンゴル民族博物館体験講座数(講座)	12	10	23	16	10	7	8	11	9	7	8	8	23	文化振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	94	70	344	162	112	82	94	140	106	169	207	175	137	
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	文化財室	
〃 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	81	0		
豊岡市美術展出品数(点)	6,893	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	5,925	4,037	3,201	3,016	文化振興課
〃 入場者数(人)	10,876	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	9,041	8,503	8,805	9,392	
入館者数(出石永楽館)(人)		未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	22,316	21,432	24,935	21,629	文化振興課
〃 (歴史博物館)(人)	9,204	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	7,120	7,225	6,596	6,085	文化財室
〃 (日本・モンゴル民族博物館)(人)	17,136	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	9,885	13,367	10,852	10,244	文化振興課
〃 (市立美術館-伊藤清永記念館-)(人)	14,662	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	7,108	10,009	9,874	6,583	
〃 (植村直己冒険館)	36,849	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	22,651	22,362	23,992	17,714	生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	9,448	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	5,783	8,590	7,987	9,600	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	1,974	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	290	982	0	0	出石・地域振興課
使用者数(豊岡市民会館)(人)	142,938	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	85,745	86,001	99,258	73,118	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	18,193	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	21,211	16,725	6,565	2,468	出石・地域振興課
〃 (豊岡市民プラザ)(人)	105,106	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	119,528	129,245	130,402	129,278	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)		4	5	7	5	6	5	4	5	4	5	3	4	教育総務課
〃 補助金額(万円)		1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	2,490	2,473	1,673	2,653	
ジオパークジオガイド養成講座(回)				4	2	20	11	2	1	0	1	1	0	大交流課
小・中・高生ジオ講座受講者(人)				277	134	60	164	32	0	109	550	198	164	
屋外広告物の許可数(件)	87	219	125	174	157	219	178	183	157	160	168	159	177	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	5	9	3	8	3	3	5	4	1	6	2	1	1	都市整備課
〃 助成金額(万円)	98	162	44	1,055	79	93	128	79	17	773	155	25	11	
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	29	27	28	27	27	27	27	22	22	22	22	22	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	生活環境課
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
花苗の配布数(団体)	179	209	212	163	161	161	142	110	128	111	111	125	214	生活環境課
花と緑のまちづくり事業数(回)		5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
都市公園数(箇所)	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	都市整備課
開発行為による公園数(箇所)	51	52	52	52	52	52	52	52	53	53	53	53	54	

行動指針 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます

(1) 河川等での環境美化活動

地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進促進

(2) 地域における環境教育の推進

リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進

(3) 環境を考える事業の実施

①市民環境講座を実施

②環境問題をテーマにした各種イベントを実施

③クールスポットを開設するとともに、より多くの人が集まる企画をすることにより、コミュニティセンターを多世代にわたる交流の拠点

(4) 環境に取り組む団体の育成

地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援

(5) 地域コミュニティの取組みへの支援と情報提供

地域コミュニティの取組みを支援し、情報を提供

《行動指針 8 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	4	10	5	3	4	2	4	1	14	22	17	26	38	コウノトリ共生課
マイバッグ啓発活動実施店舗数(件)	1	11	13	6	8	4	3	3	1	1	1	1	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	6	3	5	2	2	2	2	0	0	1				コミュニティ政策課
〃 補助金額(万円)	202	56	48	37	23	38	43	0	0	50				
市民エコポイント発行数(P)						24,888	49,689	41,800						環境経済課
企業エコポイント発行数(P)						294.5万	483.5万	545.5万						
健康・環境エコポイント制度 (※1)														
健康ポイント手帳交付者数(人)									4,429	4,860	5,677	5,716		健康増進課
環境行動実践者数(人)									281	535	613			環境経済課
健康ポイント引換者数(人) (※2)													3,440	健康増進課

※1 市民エコポイントと企業エコポイントは、2015年から健康ポイントと統合されました。

※2 制度のリニューアルにより、2019年度から手帳、シート、スマホアプリのポイントを交換した延べ人数になりました。

行動指針 9 環境意識を高める学習・教育を進めます

(1) 環境を考える事業の実施

①市民向けの環境学習講座を実施

②環境問題をテーマにした各種イベントを実施

(2) 環境に関する学校教育の推進

小中学校において、環境に関する学校教育を促進

(3) ふるさと教育の推進

市内小中学校において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の課題に、豊岡の世界に誇れる「ひと・こと・もの」に学ぶ授業を展開

《行動指針 9 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
エコハウス暮らしの講座等実施(回)				8	8	7	1	0	0	0	0	0		環境経済課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)	6	9	22	23	14	15	71	20	10	12	11	18	15	秘書広報課
〃 受講者数(人)	257	247	652	703	332	564	3,987	762	188	299	436	406	343	
子どもの野生復帰大作戦参加者数														
(子どもコース)(人)	155	198	235	152	99	99	83	67	62	61	55			生涯学習課
(指導者養成)(人)	32	12	30	—	—	24	11	0	—	—	—			
(親子コース)(組)	—	—	44	67	52	51	61	66	45	40	42			
(野外キャンプ)(人)	—	159	138	62	72	73	91	115	57	—	91			
(周年型体験プログラム)(人)												80	99	
(単年型体験プログラム)(人)												86	80	
(成人対象体験プログラム)(人)												25	28	
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数														
(小学校)(校)	17	20	22	22	22	23	23	29	23	23	27	29	29	こども教育課
(中学校)(校)	4	4	4	4	4	7	7	7	8	6	6	4	4	
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数														
(小学校)(校)	8	30	30	30	30	30	30	29	18	21	25	28	29	こども教育課
(中学校)(校)	1	0	1	1	1	4	4	5	7	4	7	8	9	
自然学校参加者数(人)		870	862	851	847	828	762	749	747	702	750	718	718	こども教育課
農業体験(稲作)実施校数(小学校)	13	13	14	20	20	22	20	19	18	20	19	23	21	こども教育課
里山観察等実施校数(小学校)		9	8	7	7	20	16	14	18	16	15	26	15	こども教育課
川の体験活動実施数(小学校)(校)		11	17	19	22	29	27	28	29	29	28	27	27	こども教育課
小・中学校フィフティ・フィフティシステムによる削減効果(2014年からシステム見直しのため2010年比)※2013年度以前は2005年度比(%)	-5.2	-3.9	-10.7	-7.7	-10	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	-7.6				教育総務課
出張! 田んぼの学校(回)			3	3	4	11	16	20	24	21	15	16	15	コウノトリ共生課

行動指針10 環境に関する知を集積し、活かします

(1) 環境をテーマとした連携の強化・拡大

- ①高等教育機関を核とした研究者や企業の交流を促進
- ②異業種の交流を促進
- ③環境経済型企業の育成・誘致推進

④事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進

(2) 環境を研究する機関との連携・協力

環境を研究する機関との連携・協力の推進

(3) 環境に関するオピニオンリーダーとしての国内外への情報発信

先進的な取組みを、国内外へ発信

《行動指針10に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
産学連携協定締結数(校)			1	1	1	0	0	0	0	0	0	0		環境経済課
稽古堂塾参加者数(人)								20	23	23	24	24		環境経済課
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)		4	9	8	5	7	7	7	6	—				コウノトリ共生課
高校生等地域研究支援補助金(件)										2	3	7	5	コウノトリ共生課

行動指針11 ごみの減量、再資源化を進めます

(1)ごみの減量化

- ①ごみの適正な分別を促し、ごみの減量化を推進
- ②レジ袋削減、マイバッグ持参運動を推進
- ③パンフレット、チラシ等の削減を推進
- ④5 R 運動を推進
- ⑤レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法を促進
- ⑥環境への負荷を低減する製品の開発を促進
- ⑦ごみや汚泥の広域処理計画推進

(2)ごみの再資源化

- ①地区、PTA等による資源ごみの回収活動を支援
- ②再生資源利用製品を購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動を推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収を支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化を支援

(3)ごみの減量化・再資源化のための啓発

ごみの減量化・再資源化のための啓発

(4)事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正な処理を促進
- ②建築廃材の再利用を促進
- ③農業廃棄物のリサイクルを促進
- ④食品廃棄物の回収システムを検討
- ⑤食品廃棄物の堆肥化を促進

《行動指針11に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
ごみ搬入量(t)	32,610	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	27,185	26,776	26,603	26,806	生活環境課
〃 12年度(42,878 t)との比較(%)	-24	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	-36	-38	-38	-38	
レジ袋有料化等協定数(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
資源ごみ集団回収量(t)	3,921	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	2,526	2,448	2,344	2,243	生活環境課
〃 補助金申請団体数(延べ)(団体)	680	657	664	662	635	634	644	651	663	655	672	655	646	
〃 補助金額(万円)	2,335	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	1,740	1,687	1,617	1,544	
資源ごみ常設回収庫補助件数(地区)	1	2	3	4	0	1	1	2	0	1	1	3	0	生活環境課
市単価契約物品のうち再生利用品(品目)	108	97	101	94	95	89	89	89	89	89	90	92	94	総務課
〃 グリーン購入法適合品(品目)	66	53	60	52	78	88	67	69	69	69	70	72	75	
〃 エコマーク付商品(品目)	45	39	81	27	28	57	50	53	53	53	54	60	63	
学校資源ごみ回収実施校数(小中学校)(校)	10	12	28	28	34	36	35	29	36	33	33	34	34	こども教育課

[illegible]

行動指針12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます

(1) 日常生活における環境負荷の確認

- ①家庭での節水や節電など環境行動を普及啓発
②環境家計簿を普及啓発

(2) 再生可能エネルギーの利用

- ①太陽光発電システムを公共施設に率先して導入
- ②個人住宅への再生可能エネルギーの導入を支援
- ③再生可能エネルギーの導入、利用の推進

(3) 自動車から排出する二酸化炭素の削減

- ①アイドリングストップなどのエコドライブを促進
- ②京阪神等遠隔地へは公共交通機関利用を促進
- ③低公害車・低燃費車などいわゆるエコカーを購入
- ④保有車両を適正に点検
- ⑤共同輸配送など車の利用の合理化

(4) 省エネルギーの推進

- ①省エネルギーを考えて施設や設備を整備
- ②LEDなど省エネルギー対応の器具を購入
- ③使用しない電気機器は電源を切る
- ④冷暖房温度を適切に設定（夏28度、冬19度）
- ⑤自動販売機の設置抑制を検討

《行動指針12に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
市施設への太陽光発電設置数(箇所)	1	5	3	28	2	3	5	1	1	1	0	0	0	コウノトリ共生課
〃 設置量(kw)	4.8	17.71	8.4	399.7	23.76	695.22	350.0	5.5	1,123	25.0	0	0	0	
住宅用太陽光発電設置補助件数(件)	23	34	66	73	78	88	78	30	29	37	40	27	19	コウノトリ共生課
〃 設置量(kw)	87.68	121.16	254.41	301.40	350.53	407.65	346.88	138.41	136.95	161.78	201.13	124.01	113.23	
〃 補助金額(万円)	412	586	1,199	1,288	1,449	1,191	1,003	335	341	446	526	385	323	
エコアクション21認証企業(社)							5	5	5	6	2	0	0	環境経済課
アイドリングストップ啓発回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
街灯のLED化補助(件)						248	302	565	596	1,092	1,362	1,427	1,023	生活環境課
但馬空港飛行機利用助成人数(人)	11,508	11,292	13,007	12,582	12,134	10,387	12,367	12,457	11,379	11,507	12,397	15,756	14,934	都市整備課
〃 助成金(万円)	6,515	6,872	6,468	5,963	5,749	5,019	5,819	6,046	5,711	5,646	5,919	7,274	6,812	

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
低公害車・低燃費車購入台数(台)	27	11	3	—	—	—	—	—	—	0	0	0	5	総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合(%)		49.4	53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	65.9	80.9	82.6	97.0	
省エネ器具購入数(件)	27	11	34	37	17	11	13	12	19	45	46	40	10	総務課
市の施設のＣＯ２削減(2007排出量比)(%)				5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	19.86	22.37	24.76	26.04	総務課
校園庭芝生化事業の実施(校園)			7	14	9	9	5	2	0	0	0	0	0	教育総務課
校園庭芝生化事業の実施(㎡)			15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	0	0	0	0	教育総務課

行動指針13 地産地消を進めます

(1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ①地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食に使用
- ②地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費を促進
- ③食品の産地表示促進

(2) 消費者と農林水産業者との交流

- 消費者と農林水産業者との交流を促進

(3) 食生活の向上と食育

- ①エコクッキング(環境にやさしい料理法)などを普及啓発
- ②旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③食に関する情報を提供

《行動指針13に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	27.6	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	22.0	25.2	28.8	37.1	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)														
市内産米(回)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
うちコウノトリ育むお米(回)	0	0	1	1	2	2	2	2	3	5	5	5	5	
コウノトリの舞認証農産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	20	農林水産課
〃 加工品数(商品)			1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	2	
マロニエの里認証商品数(商品)	47	46	23	21	21	21	15	20	14	0	0	0	0	日高・地域振興課
旬を楽しむ会実施回数(回)								2	2	2	1	0		環境経済課
〃 延べ参加人数(人)								200	200	200	100	0		
市広報での食育PR回数(回)			6	6	4	4	3	0	0	0	0	0	1	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	58	57	80	96	201	240	192	179	138	137	126	211	207	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	988	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	1,995	1,828	2,913	2,396	
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	14	17	32	36	34	36	33	38	36	36	36	29	28	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	420	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	1,077	969	570	493	
〃 (未就学児・保護者)実施回数(回)	24	13	23	78	77	80	40	33	36	45	36	33	33	
〃 受講者数(延べ)(人)	357	175	365	405	546	611	550	583	498	724	629	584	551	

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
離乳食講習会実施回数(回)	88	90	88	90	90	90	87	87	87	88	89	89	88	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	1,362	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	1,235	1,147	1,029	956	
幼児食講習会実施回数(回)		123	123	106	106	106	98	97	96	94	94	91	87	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)		800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	1,222	1,151	1,144	1,059	
子育てセンター食育事業回数(回)	33	21	14	22	23	18	18	23	36	52	50	50	54	こども育成課
保育園料理教室等開催園数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	25	26	23	こども育成課

・食品の産地表示促進(コウノトリの舞認証農産物)は行動指針3に記載

・農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針3に記載

行動指針14 環境と経済の共鳴を進めます

(1) 豊岡型地産地消の推進

①農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化を支援

②朝市や農林漁業体験活動を支援

③エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業(エコビジネス)を促進

(2) コウノトリツーリズムの展開

①コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリ

ズム推進

②市民によるツーリズムガイドの養成

(3) 環境経済型企業が集積

①環境経済型企業の育成・誘致の推進

②環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組む企業を支援

③異業種交流を促進

(4) 環境ビジネスの創出支援

排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動を支援

《行動指針14に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	関係部署
直売所設置数(件)	36	42	40	40	39	39	39	39	39	39	34	34	28	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数(件)	5	5	6	6	7	6	6	6	6	6	1	1	1	農林水産課
コウノトリ文化館入館者数(人)	455,373	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	230,734	232,751	218,704	202,230	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数(人)		8	269	674	626	279	217	206	281	247	187	133	103	コウノトリ共生課
環境経済事業推進補助金(件)	4	5	8											環境経済課
〃 補助金額(万円)	425	499	661											
技術革新等支援事業補助金(件)				7	6	8	2	4	1	4	4	2		環境経済課
(環境経済型関係) 〃 補助金額(万円)				1,036	1,329	1,371	321	330	303	505	751	379		
環境経済認定事業数(件)						35	6	5	10	6	8	6	3	環境経済課

第5部 環境審議会意見の反映状況 (市の取り組み)

■環境審議会意見の反映

環境報告書で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

目標像①「豊かな森」

■防災の切り口での、森林環境保全の必要性の周知について

【農林水産課】

- ・台風等による山地崩壊の懸念から、市内各集落でも裏山からの倒木や土砂崩れへの対策意識が広がっています。そこで、地区からの要望等を取りまとめ、県民緑税を活用した「緊急防災林整備」や「里山防災林整備」を計画的に進めています。整備が完了した集落からは身近な山林が綺麗に刈り込まれ、見た目にも安心感が得られたと好評もいただいております、森林環境の保全対策として有効であることから、引き続き県と連携しながら PR と事業実施に努めます。

■間伐等による、針葉樹と広葉樹のバランスが保たれた健全な山づくりについて

■所有者も境界が分からない山林の適切な管理に向けた取組みについて

【農林水産課】

- ・国の造林補助事業を活用し、主に北但東部森林組合が森林所有者からの委託を受け、間伐を中心とした保育施業を継続的に実施しております。2019 年度の除間伐実績は 316ha でした。また、県民緑税を活用した「針葉樹林と広葉樹林の混交林整備」では、災害に強い森づくりの一環として気象災害に弱いとされている高齢の人工林を部分的に伐採し、その跡地に広葉樹等の多様な樹種を植栽することにより、風倒木被害防止と洪水防止機能が期待できる健全な森林への更新を進めています。
- ・森林の経営管理を進めるに当たって、不在村森林の増加、所有者不明や境界未確定の森林の存在等が大きな課題となっています。そこで、国の「森林経営管理制度」を活用し、経営管理が行われていない森林について、市が森林所有者の委託を受け経営管理することや、林業経営者に再委託することにより、林業経営の効率化と森林の管理の適正化を進める予定としています。

■木材の再生可能エネルギーとしてのさらなる活用について

【農林水産課】

- ・2019 年 8 月末で豊岡産ペレット製造が終了となりましたが、木質バイオマスの循環エネルギーとしての利活用を継承し、間伐未利用材の朝来バイオマス発電所への全量供給に切り替え、進めています。これに必要な設備整備として、市内の林業事業者が行う林地残材の集積と搬出に必要な設備や車両等の導入に対し、市は支援を行っています。

【コウノトリ共生課】

- ・化石燃料からの脱却と自然エネルギーの活用に向けて、住宅及び事業所に対して木質バイオマス利用機器導入補助制度を実施しています。市の公式ホームページや広報紙を活用して制度の周知を図るとともに、更なる普及促進のため、制度を一部改正し市民の利便性を向上させました。

目標像②「里山」

■里山を活用した市民講座について

【農林水産課】

- ・里山整備に対する地域の関心が高まりつつあるなか、地域住民が自主的に行う森林整備を支援するため、県民緑税を活用した「住民参画型森林整備」の活用を紹介、実施しています。この取組みを通じ、森林の果たす役割や森林整備の必要性などについて市民の理解促進を図り、森林環境教育や植樹活動といった木育活動に繋がることを期待しています。
- また、公益社団法人兵庫緑化推進協会が実施する「森と緑とのふれあい支援事業」には、森林における学習体験活動における材料費や指導費等に対し支援するメニューもあり、こういった事業との連携や活用も視野に入れたうえでの市民講座等の実施も、今後検討します。

【コウノトリ共生課】

- ・豊岡の象徴となっている湿地帯の保全は、その上流に位置する里山や森林の保全と一体的に捉える必要があります。目先の現象だけにとらわれず、その裏にある原因を考えられる教育の充実を検討します。

■山の生態系を守る視点での有害獣対策について

■駆除された有害獣の肉や皮の有効活用について

【農林水産課】

- ・市では2014年度からシカの捕獲に特化した1期3年の「シカ有害被害撲滅大作戦」という取組みを実施しており、県の調査結果によると市内におけるシカの推定生息数は、2013年度末20,567頭から2017年度末12,435頭と4年間で8,132頭も減少しています。一方で、シカが高標高地など捕獲困難な地域において定着し、植生被害をもたらしている状況は承知しており、銃専任班による捕獲の実施など捕獲圧を高めるなどの対策を進めています。さらに、2020年度からは第3期計画を開始しますが、林道を車等で移動し、シカを見つけたら車から降りて捕獲を実施する「流し撃ち部隊」を創設するなど、高標高地での捕獲を重点的な取組みとして位置付けています。
また、有害鳥獣の有効活用については、2019年度に民間の食肉処理加工施設が出石町奥山に開設されましたので、捕獲と活用のバランスを考えつつ、施設と豊岡市有害鳥獣捕獲班、猟友会としっかりと連携しながら、歩調を合わせて推進していきたいと考えます。

【コウノトリ共生課】

- ・市では2014年度から山に生育する希少植物や生態系をシカの食害等から守るため、植生保護柵を設置しています。2019年度末時点では、植生保護柵を市内8カ所に設置し、総面積10,632㎡、総延長1,536mです。また、保護対象となっている植物の生育状況や倒木等による保護柵の破損等の状況確認のため、巡回調査を行っています。

目標像③「田んぼ」

■学校給食に無農薬米を使用することについて

■学校給食での地元食材の利用に関する、豊岡市独自の目標設定について

【教育総務課】

- ・無農薬米の使用については、価格面も併せて考慮して検討を進めます。
- ・地元食材の利用については「とよおか教育プラン実行計画」で、国の品目ベースではなく、市独自の野菜の重量ベースでの指標を設定しています。

■使われていない農地の実態を把握する方法の検討について

【農業委員会事務局】

- ・年1回(7月中旬～8月)、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局職員で地利用状況調査(農地パトロール)を実施しています。遊休農地と判断された農地については、所有者へ利用意向を確認しています。
また、遊休農地を発生させないように、農地の利用調整を実施しています。

目標像④「川・海辺」

■子どもたちが川に近づきにくい、利用しにくい環境を改善し、市民の水辺再生の機運を高める取組みについて

【こども教育課】

- ・各学校の実態に合わせ、児童生徒、保護者、地域の方々と一体になって取り組む清掃活動やふるさとの浜や川を美しく保っていくためのさまざまな啓発活動を今後も推進していきたいと考えています。

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業のプログラムは、河川も含めた市内の豊かな自然環境を活用し実施しています。2019年度は、日高の阿瀬溪谷での沢登り、円山川でのいかだ下りを実施しました。また、豊岡地域子ども会連絡協議会の事業の一環として「豊岡ファミリーキャンプ」を竹野町東大谷の豊岡市立東大谷野外活動施設「たけのこ村」で実施しました。毎年、継続した活動メニューとして、竹水鉄砲づくり、魚のつかみ取りを実施し、地元河川(大谷川)を利用した取組みを行いました。

【コウノトリ共生課】

- ・小学校で実施する生きもの調査やコウノトリ KIDS クラブの活動等で河川を利用していますが、全体的には安全面への配慮から人が水辺に近づきにくい環境となっています。自然再生や清掃活動にあわせて、人々が水辺に親しみを持てる環境づくりを働きかけます。

目標像⑤「生態系」

■豊かな生態系を守る活動を市内へ広めることについて

【コウノトリ共生課】

- ・自然再生アクションプランでは、そこに住む住民がふるさとの自然に関心を持ち、より豊かな自然環境を取り戻すため、自ら活動することを目指しています。現在2カ所のパロットエリアで実践中ですが、今後この取組みを市内各地へ拡大していく予定です。

■豊岡の生態系保全の取組みを市外に発信することについて

【コウノトリ共生課】

- ・毎年たくさんの研究者や学生、環境保全団体等が視察やボランティア活動で豊岡を訪れます。またさまざまなシンポジウムや研修で、豊岡のコウノトリ野生復帰の取組みを紹介する機会を与えてもらっています。日本コウノトリの会等が進める民間レベルの交流も含めて、積極的に市外への情報発信に努めます。

目標像⑥「祭り・行事」

■地域の祭りや行事を未来につなげる指導者の育成について

■子どもが地域の伝統行事に触れる機会の提供について

【コミュニティ政策課】

- ・急速に人口減少や少子高齢化、核家族化が進んでいることにより、伝統文化の継承が困難になっています。そのため、地域コミュニティ組織が主催となって、自分たちの地区の「まち歩き」イベントを行っています。地区の歴史に詳しい住民が案内役となり、小学生から年配の参加者に対して説明を行っています。幅広い年齢層が参加することで、世代間交流の機会にもなっています。

その他にもスポーツや祭りを通じた世代間交流として、子、親、祖父母の三世代で参加することを目的に開催されたグラウンドゴルフ大会や夏祭りが行われていますが、一部の地区での開催というように地域差があります。

【こども教育課】

- ・各学校で、夏休みのラジオ体操や市民総参加訓練への参加を呼びかけました。今後も、学校・家庭・地域の連携を図りながら、児童生徒の地域行事への参加を呼びかけていきます。

【生涯学習課】

- ・地域行事、祭りなどへの参加体験は、子どもたちにとって「ふるさと意識」の芽生えにつながるものと考えます。各地域の青少年健全育成会議等の活動の中で、身近な大人や地域の高齢者等との交流を通じて、子どもたちに対してさまざまな、郷土、地域芸能学習の機会を提供しています。

目標像⑦「自然」

■地域の前線で活動できる人材の育成について

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業では「成人対象体験プログラム」として、子どもたちの育成者となる保護者や若者を対象に、自然体験活動の魅力を体感し、子どもの体験機会づくりの必要性の認識と知識・技術の習得のための活動を実施しました。

【コウノトリ共生課】

- ・コウノトリ文化館が実施する田んぼの学校や植物観察会等は、身近な自然が多様性に富み、かつ、複雑に絡み合っていることを教えてくれます。ふるさとの自然に関心を持ち、子どもたちに話ができる大人の育成に関しては、まだまだ十分対応できていません。

■地域の前線で活動する人材の活用について

【こども教育課】

- ・地域の前線で活動する人々からの学びは、ふるさと豊岡に関心を寄せ、豊岡の将来について考え、何か貢献できることがないか自分を見つめ、考える機会となっています。また、その学びから、さらに詳しく調べるとともに、調べる範囲も広げていきたいという意欲的な気持ちも育まれています。

【生涯学習課】

- ・青少年健全育成会議、子ども会等の活動の中で、地域の野外体験の指導者による自然環境を活用した育成活動を実施しています。
今後も引き続き、地域全体で子どもの教育を支援し、地域ぐるみで子どもを育てるとともに、多くの地域の方々が学習活動へ参画することによる地域教育力の向上を図ります。

【コウノトリ共生課】

- ・コウノトリ KIDS クラブでは、地域の暮らしや自然に詳しい人々を講師に招き、活動を支援してもらっています。

■豊岡ふるさと学習ガイドブックの有効な利用について

【こども教育課】

- ・ふるさと学習ガイドブックで調べたことをより深く学ぶために、ゲストティーチャーによる出前授業、現地の見学、実験等の体験学習を通し、豊岡のことを詳しく知り、ふるさと豊岡を自分の言葉で語れるように、今後も有効的に活用していきます。

【コウノトリ共生課】

- ・3、5年生のコウノトリ学習の一環で、ゲストティーチャーとしてコウノトリ共生課の職員等が参加しています。

目標像⑧「ごみ」

■マイクロプラスチック対策について

■適切なごみの回収と処理について

【生活環境課】

- ・不適正な処理により陸上から河川を経由して海洋へプラスチックのごみが流出しており、ポイ捨てや不法投棄の撲滅、清掃活動や海洋ごみの回収とともに、プラスチックの3R(リデュース、リユース、リサイクル)を一層推進していくことが不可欠だと考えています。

目標像⑨「省エネ」

■電力固定価格買取制度(FIT)の買取期間満了による影響と対応について

【コウノトリ共生課】

- ・市内で発電した電力を市内で消費できるよう民間事業者と共同でシステムづくりに取り組んでいます。一例として、市内の農地で発電された電力の余剰分をコミュニティセンターの電力として活用しています。

■市民が楽しみながら参加できる、エコポイントに代わる新制度の検討について

【コウノトリ共生課】

- ・新制度はありませんが、市民の皆さんが楽しみながらエコな暮らしを実践できるような取組みを検討したいと考えています。

目標像⑩「環境経済」

■環境経済認定事業の周知について

【環境経済課】

- ・環境経済認定事業の紹介として、市の公式ホームページへの掲載、JR 豊岡駅改札前の展示に加え、新たに本庁総合受付ディスプレイでのPR画像放映を開始しました。より多くの事業者に取り組みが広がるよう、引き続き周知していきます。

■駆除された有害獣の肉を有効に活用するための催しについて

【農林水産課】

- ・ジビエの振興については、民間の食肉処理加工施設と豊岡市有害鳥獣捕獲班および猟友会としっかりと連携しながら、推進していきたいと考えます。広くジビエを知っていただく機会として、祭りの開催も含めてどのような方法がよいのか、今後慎重に協議していきます。

第6部 2019年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、さらに主な関係課を載せています。

記号： **市** **市民** **事業者**

(1)「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

森林が持つ多面的な機能について、市民の理解がさらに進むように、森林が提供する生態系サービス(※)の価値や具体例をこれまで以上に周知する必要があります。

(※)生態系サービス：生きものや自然の恵み

市

事業者

間伐等で切った木を森林内に放置するのではなく、間伐材等も木材として、またバイオマスストーブの燃料や活用しましょう。木材を材料としても活用する仕組みを作り、啓発活動をすすめることで意識変革をもたらすことを望みます。

市

市民

事業者

自然体験が多い人ほど環境意識も高いと言われています。自然体験と環境教育をうまく絡めた取組みを進めてください。(例：山歩きイベント、環境に関する映画の学校での上映)

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課
コウノトリ共生課

環境経済課
農林水産課
コウノトリ共生課

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

目標像②里山が様々な利用され、関わる人が増えています

地域の理解と需要がなければ行政は里山体験施設の維持管理も新規整備も続けることができません。地域や学校が遠足などで里山を活用する事業を計画する等、普段から里山にふれる機会を増やすことを望みます。

市

市民

山にはツキノワグマやマダニなど人の命を脅かす危険な生きものもいます。行政は対策等の情報発信を適切に行い、市民は安易に山に入ったり、むやみに恐れて敬遠したりするのではなく、正しい知識と対処法を身につけることが大切です。

市

市民

捕獲・有害駆除した野生動物の肉や皮を有効に活用する方法について、引き続き研究を進めてください。

市

市民

事業者

【主な関係課】

コミュニティ政策課
生涯学習課
農林水産課
コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

農林水産課
コウノトリ共生課

環境経済課
農林水産課

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

「コウノトリ育むお米」の地元消費は学校給食が主ですが、こども園など、より低年齢からの利用を願います。また、家庭や飲食店などでも利用を進め、市民や事業者からのおいしさや安全性の発信を期待します。

市

市民

事業者

市内で生産されているお米や野菜の「地産地消」は、域内経済の活性化につながるだけでなく、輸送の無駄を省き地球温暖化対策としても有効であるので、「地産地消」をさらに進める必要があります。

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課
こども育成課

環境経済課
コウノトリ共生課

学校給食で農業スクール卒業生や新規就農者などが生産した野菜を期間を定めて購入し、地元野菜使用率の更なる向上と生産農家としての自立支援を提案します。

市 市民 事業者

農林水産課
教育総務課

都会の人や若者等も農業に関わることができるように、使われていない農地をいろいろな人とつなぐ仕組み作りを期待します。

市 市民 事業者

環境経済課
農林水産課
農業委員会事務局

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

市民が安全に利用できる川や海辺環境を整備し、水辺空間に関心・親しみを持つ市民を増やしましょう。(例：石や流木を使った創作活動(ストーンペインティングなど)、礫河原で川の仕組みや石の観察会)

市 市民 事業者

【主な関係課】
生涯学習課
コウノトリ共生課
建設課

地域の刈草の処理について、地域住民に回収と処理を依頼するだけでなく、新しい回収・運搬の仕組みや資源化(たい肥など)を検討する必要があります。(例：回収・運搬費用の助成)

市 市民 事業者

生活環境課
農林水産課
建設課

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

オオキンケイギクやアメリカザリガニなどの外来種の適切な駆除が必要です。中でも特定外来生物の周知や駆除方法と対策などをいろいろな機会を利用して市民に伝えることが必要です。

市 市民

【主な関係課】
コウノトリ共生課

野外に生息するコウノトリの増加とともに、けがをする個体が増えていくことを伝え、市民や事業者に防獣ネットの適切な管理やワイヤーメッシュへの置換等の対策を進めるよう周知してください。

市 市民 事業者

農林水産課
コウノトリ共生課

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

子育て世代の若い親や外国人など地域外から来た人を含め、誰もが参加しやすい地域づくりを進め、持続可能な社会を作ることが望まれます。

市 市民 事業者

【主な関係課】
秘書広報課
コミュニティ政策課

地域の祭りや行事へ子どもの参加を促すきっかけとして、子どもの興味を引くものが必要です。動機を持って参加することで地域の歴史と良さに気づき、自主的な参加の継続につながり、子どもの頃に楽しく過ごした経験が、地元と若者のつながりづくりになります。

市 市民 事業者

コミュニティ政策課
生涯学習課

地域外から来た人と地元の人との交流は地域の多様性を広げるよい機会となります。柳まつりで地域の枠にとらわれず企業や団体等がみんなで豊岡踊りに参加しているように、接点をつくるきっかけづくりを積極的に進めてください。

市 市民 事業者

秘書広報課
コミュニティ政策課

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

生きものに詳しい人の世代交代が進んでいません。生きものの検定や生きものに詳しい子どもを表彰するなどの仕組みを作ることで生きものに興味をもつ子どもたちを育てるとともに、生きものに詳しい大人も育てることができます。

市 事業者

小学校低学年の自由研究は、興味の赴くまま集めたいものを集め、調べたいことを調べるという、子ども達が知る楽しさを学べる取り組みとなるように望みます。

市 市民 事業者

市内の全小学校区に水田ビオトープを設置する目標を早期に達成するため、設置がない小学校区へ積極的に働きかけてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

コミュニティ政策課
こども教育課

コウノトリ共生課

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

生ごみの水切りや食品ロスの削減はとても価値があり、気候変動や処理費用の抑制など大きな課題と繋がっています。日々の暮らしの中で小さなことを継続することの意味を繰り返し伝えていく必要があります。

市 市民 事業者

各種行事、特に飲食を提供する際のごみ分別や減量につながるガイドラインを作り、地域コミュニティのイベントの際に活用することを望みます。

市 市民 事業者

食品ロスの45%は家庭から(※1)で、そのうち野菜や果物が60%以上を占めている(※2)実態をふまえ、家庭科の調理実習で食材を無駄にしない切り方やごみの分別を指導するなど環境に配慮した啓発や教育をしてください。

市 市民 事業者

(※1)出典：農林水産省「食品ロス削減に向けて(令和2年2月)」

(※2)出典：農林水産省「平成26年度食品ロス統計調査報告(世帯調査)」

【主な関係課】

生活環境課
コウノトリ共生課

生活環境課
コミュニティ政策課

生活環境課
こども教育課

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

CO₂排出抑制のため、電車やバスの利用、車の相乗りなど移動方法を考える啓発を強化してください。

市 市民 事業者

太陽光発電は再生可能エネルギーとして重要ですが、生物多様性の低下を起こさない開発とすることはもちろん、撤去時の資金の積立をするなど地域に迷惑をかけない施設にしてください。

市 市民 事業者

災害に強いまちづくりをするために、国の補助事業を活用して、災害時の避難所に指定されているコミュニティセンターに太陽光パネルと蓄電池をセットにして設置することや、移動できる電気自動車に蓄電池として活用すること等を提案します。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
都市整備課

コウノトリ共生課
都市整備課

防災課
総務課
コミュニティ政策課
コウノトリ共生課

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

事業所がエコ活動に取り組むことを宣言するエコ事業所宣言が増えるように啓発する必要があります。(例：市の補助金を使う企業への宣言義務化)

市 市民 事業者

豊岡を発信するツールとして「コウノトリ育むお米」や「コウノトリの舞認証品」を活用してさらに交流を広げることを望みます。

市 市民 事業者

農繁期や雪かき期に都会の若者や留学生などのボランティアを呼び込み、交流人口を増やす仕組みを作ってください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

環境経済課

大交流課
農林水産課

大交流課
農林水産課

(2) まとめ

第2次環境基本計画の推進3年目にあたる今回の評価は、「よくがんばりました」が2項目(目標像②⑦)、「この調子でがんばろう」が6項目(目標像①③⑤⑥⑨⑩)、「もっとがんばろう」が2項目(目標像④⑧)という結果でした。目標像④は3年つづけて「もっとがんばろう」評価で、目標像⑧の評価は昨年度からひとつ下がりました。

目標像④について環境審議会で時間をかけて議論したのは、刈草の漂着問題でした。河川敷などの清掃活動で刈り取られた大量の草が、大雨後に流失して下流域や海岸に漂着するという問題です。刈り取った現場での回収が望ましいのですが、しかし現実には労力や費用などの面から難しいという事情や、クリーンパーク北但の焼却処理能力などを勘案し、環境審議会としては“地域住民に回収と処理を依頼するだけでなく、新しい回収・運搬の仕組みや資源化(たい肥など)の検討”という提言を行ないました。最重要課題のひとつとして次年度以降も注視していきます。

目標像⑧については、家庭から排出される一人当たりのごみ量が増加している点について意見を交わし、食品ロスの削減にかかわる提言を行なっています。食品ロスの45%は家庭からで、そのうち野菜や果物が60%以上という国の調査をふまえたもので、ごみの減量化への取り組みとしてのみならず、食育としても取組んで欲しいと考えています。

今回の環境報告書から、この第6部での表記の仕方を少し変更しました。環境審議会からの意見や提言に対して、取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分けて、記号を付すとともに、「市」については主な関係課を記載するようにしたのです。目標像の実現に向けた意見や提言にかかわる諸主体の連関と広がり、ひと目で把握できるようにとの思いからです。環境審議会は、諸主体の結節点となって、さまざまな取組みを支えています。

2021年2月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣			
	副会長	雀部 真理			
	委 員	内海 京子・木築 基弘・毛戸 勝			
		島崎 邦雄・菅村 定昌・土川 忠浩			
		戸田 勝之・中村 肇・西垣由佳子			
		野世 英子・洞田美津子・山下 正明			
		山田 博文			

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号：21－9017（直）

F A X 番 号：24－7801

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：